

V 2018年度博士前期課程科目別ガイド

1. 教育学研究科目（RT科目）

科目コード	012100
科目名	授業研究A（歴史・理論）
担当教員	廣嶋龍太郎

●テーマ 「先人の教育思想から自身の教育観を形成する — 日本教育史を中心に」

私たちが教育について考える時、その多くは各自の教育体験を土台としています。教育という行為は人と人の関係の中で生じるものであり、そこには個別の体験に由来する多様な考え方が見出されることでしょう。しかし、「教育の歴史・理論」を考えるときには、教育体験に共通するような「価値」や「意味」もしくは体系立った「論理」が求められることとなります。

教育の歴史については、古代のギリシャや中国までさかのぼることができますが、この科目では学校における「授業」という概念が広く共有されるようになった近代以降を対象として、日本における代表的な教育者、教育学者の思想を理解したいと考えています。教育の歴史上、参考に値すると考えられる先人の教育思想を検討した上で、さらに皆さんの教育に対する考え方（＝教育観）を再確認する機会を持っていただくことで、それぞれの抱える教育的課題を考える材料になればと思います。

●研究の視点

- (1) 現代日本の教育思想家についての理解
- (2) 日本教育史における各思想家の位置づけ
- (3) 各思想家の思想の主要概念の理解
- (4) 他の教育思想家の影響の検証
- (5) 理論と実践の関連への関心の深まり

●レポート課題と学習ポイント

課題1 テキスト『日本現代初等教育思想の群像』任意の1章について精読し、その人物の見解に対する自分の考えを述べなさい。

テキストは五章構成であり、各章で日本の教育の基礎を築いた人物と評価できる先人の教育思想を1名ずつ取り上げています。沢柳政太郎、倉橋惣三、国分一太郎、遠山啓、上田薫のいずれかの予備知識や教育制度の歴史を学んだ体験を持たないと、理解しがたい点がありうと思います。彼らの生きた時代の教育制度に関する解説書として『日本教育史』

をテキストにしましたが、この書で対応しきれない点は参考文献などもご覧ください。ご関心のある人物・領域が見つかることを期待しています。大変だとは思いますが、理解しがたいところはそのままにして、とにかく一つの章全体に眼を通して考察していきましょう。

各章には副題がつけられています。沢柳政太郎には「小学校教育の理念」、倉橋惣三には「幼稚園教育の理念」、国分一太郎には「綴方・国語教育の理念」、遠山啓には「算数教育の理念」、上田薫には「社会科教育の理念」が示されています。これらの教育理念は、その人物が生きた時代の影響を受けており、皆さんの教育体験と完全に一致するものではないかもしれません。しかし、その人物の生きた時代背景（家庭環境、社会制度、教育政策、時代思潮など）を検討し、今日的課題との関連性を探る作業は歴史研究の基本となります。ご自身の教育的関心と少しでも関係のある人物を探しながら、研究を進められるとよいでしょう。各人物を肯定する見解であれ、批判する見解であれ、自由に論じて下さい。

なお、これらの思想家のうちの数名が教育思想を形成する過程には、西洋の教育思想家による教育理念の影響が指摘されています。これは明治以降の日本の学校教育の歴史が西洋諸国との関係の中で形成され、発展してきたことと無関係ではありません。コメニウス、ロック、ペスタロッチ、フレーベルなどの人物の原著そのものに当たる必要はありませんが、それらの教育思想家の理念の概要についておおまかに確認することで、より深い理解につながることを期待されます。これらの確認を希望される方は、参考文献をご参照ください。

課題2 「教育を歴史的に学ぶことの意義」について、具体的事例や自身の研究課題等と関連付けながら、見解を述べなさい。

今日の教育的事象を検討するとき、歴史的な背景に立ってその意義や成り立ちを理解しようとする必要があることがあります。教育に関する現実的問題の解決のために、遠回りかもしれませんが物事の事実関係、価値や役割などをあらためて検討するのが教育史の役割の一つです。

「歴史を学ぶ意義」については、小学校教育から大学教育まで、繰り返し問い直される課題です。これまでの学習経験の中で、「何のために歴史を学ぶのか」という問いを抱いた方も多いかと思います。歴史についての考え方は人それぞれですので、課題1で研究した内容も参考にして、各自が「教育を歴史的に学ぶことの意義」について考察してください。

各自の歴史観を述べる際には、一般的な教育的課題や、個別の教育体験に基づくことが必要になります。歴史研究を専門とする方でなくても、自身の研究対象についての歴史的興味や関心を改めて検討するのもよいでしょう。

この課題の参考として、テキスト『日本の教育史』を指定しました。具体的事例や自身の研究課題を考える上で、各章の内容が参考になれば幸いです。今日的事例との関連では6章以降の近現代がより考えやすいと思いますが、各章のコラムも併せて参照すると、考察の手がかりになるかもしれません。（特に、2章のコラムは現職の方の見解ですので、参考になるでしょう）

●配本予定テキスト

- (1) 乙訓稔『日本現代初等教育思想の群像』東信堂、2013年
- (2) 名倉栄三郎編著『日本教育史』八千代出版、1984年
- (3) 佐藤環編著『日本の教育史』あいり出版、2013年

●参考文献

- (1) 成城学園澤柳政太郎全集刊行会編『沢柳政太郎全集』第3巻、国土社、1978年
- (2) 成城学園澤柳政太郎全集刊行会編『沢柳政太郎全集』第4巻、国土社、1979年
- (3) 倉橋惣三『倉橋惣三選集』第1巻、フレーベル館、1965年
- (4) 上田薫『人間のための教育・社会科とその出発』(上田薫著作集第13巻)黎明書房、1994年
- (5) 佐々井利夫・樋口修資・廣嶋龍太郎共著『教育原理』明星大学出版、2012年
- (6) 唐沢富太郎『近代日本教育史』誠文堂新光社、1968年
- (7) 教育史学会編『教育史研究の最前線』日本図書センター、2007年

科目コード	012200
科目名	授業研究B（実践・評価）
担当教員	吉富芳正

●テーマ 「総合的な学習の時間の授業及び評価」

本科目では、総合的な学習の時間を中心にして授業の計画、実施、評価について考えていきます。

総合的な学習の時間は、平成10・11年の学習指導要領の改訂に伴って創設されました。創設当時、その役割に大きな期待がもたれ学校の裁量を生かした取組が進められた一方、一部では混乱もみられました。その後およそ20年が経過し、徐々に学校現場に定着してきたといえるでしょう。

平成29・30年の学習指導要領の改訂では、総合的な学習の時間の重要性は一層増しているようにみえます。すなわち、平成29・30年に改訂された学習指導要領は、社会の変化に後追いで対応するのではなく、よりよい社会や人生を自ら創造するために必要となる資質・能力を明らかにして教育課程を改善していこうとするものであり、既存の教科等を超えて横断的・総合的に学習を広げ深めることができる総合的な学習の時間への期待は高いものがあります。この改訂では、総則において、学校において教育目標を明確にするに当たっては総合的な学習の時間の目標との関連を図ることが新たに求められています。また、高等学校については、小・中学校の成果を踏まえつつ生涯にわたって探究する能力を育むための総仕上げとしてこの時間を位置付ける趣旨から「総合的な探究の時間」とされています。

一方、総合的な学習の時間は、既存の教科等に比べて学校や教師の創意工夫に委ねる部分が多いこともあって、全国の学校で質の高い取組を目指す上で、今なお解決すべき課題が残されています。

そこで、本科目では、総合的な学習の時間について、まずその意義について考察し、その上で、目標設定や内容の選択・組織・配列といった全体的な枠組みの作り方について検討します。次に、総合的な学習の時間の意義を授業を通じて具現化することを意識しながら、指導計画の作成や学習指導の在り方を考えていきます。さらに、よりよい授業を目指す視点から指導と評価の一体化や自己学習力の向上に向けた評価の工夫などについて考えていただきたいと思います。

なお、本科目の学習に当たって、小・中・高等学校の全体について追究してもよいし、特に関心がある学校段階があればそこに焦点を絞って追究してもかまいません。

●研究の視点

- (1) 総合的な学習の時間の意義は何か
- (2) 総合的な学習の時間の目標をいかに定めるか
- (3) 総合的な学習の時間の内容をいかに選択し組織し配列するか
- (4) 総合的な学習の時間の指導計画をいかに作成するか

- (5) 総合的な学習の時間の学習指導をいかに展開するか
- (6) 総合的な学習の時間の評価の観点や評価規準などをいかに設定するか

●レポート課題と学習ポイント

課題1 総合的な学習の時間の意義とその目標設定や内容の選択・組織・配列において重視すべき点について論じなさい。

課題1の追究のためには、上記「研究の視点」(1)～(3)について、テキスト及び参考文献をもとに学習を深め、総合的な学習の時間の特質を把握するとともに現状を視野に置き、根拠を明確にして自分の意見をもち、それらを表現しながら練り上げていくことが望まれます。

(1)「総合的な学習の時間の意義」について、今日、そしてこれからの学校の教育課程においてなぜ総合的な学習の時間が必要なのかを考察し、それを踏まえて、(2)「総合的な学習の時間の目標の設定」と(3)「総合的な学習の時間の内容の選択・組織・配列」に当たって重視すべき点を明らかにしてください。その際、平成29・30年に改訂された学習指導要領では、総合的な学習の時間を含めて教科等を貫いて「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されていること、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が求められていることに留意してください。

こうした学習の前提として、教育課程の基準である学習指導要領に関する知識は欠かせません。平成28年の中央教育審議会の答申やそれを踏まえて平成29・30年に改訂された新学習指導要領についてよく理解しておくことが大切です。このことは、課題2についても同様です。

また、総合的な学習の時間の目標や内容は、学習指導要領に示された方向性を踏まえて、各学校が定めることとなります。各学校において総合的な学習の時間の目標や内容を適切に設定するためには、カリキュラム論の基礎的内容を理解しておくことが重要です。そうした意味では、配本するテキスト(3)が参考になります。

課題2 総合的な学習の時間の指導計画の作成、学習指導と評価の考え方や進め方について論じなさい。

課題2の追究のためには、前頁「研究の視点」(4)～(6)について、テキスト及び参考文献をもとに学習を深め、総合的な学習の時間の特質を把握するとともに現状を視野に置き、根拠を明確にして自分の意見をもち、それらを表現しながら練り上げていくことが望まれます。

(4)「総合的な学習の時間の指導計画の作成」については、まず全体計画や年間指導計画について簡潔に触れた上で、単元の指導計画に重点を置いてその作成上のポイントについて述べてください。次に、(5)「総合的な学習の時間の学習指導」と(6)「総合的な学習の時間の評価」については、その考え方や進め方についてポイントをまとめてください。

それらをまとめるに当たっては、「横断的・総合的な学習」や「探究的な学習の過程」を重視しているといった総合的な学習の時間の特質を踏まえて、最終的に子どもたちの資質や能力をより効果的に豊かにすることができる質の高い授業となって結実することを意図しながら考えてください。

なお、新学習指導要領を踏まえた学習評価や指導要録の在り方については、現在、文部科学省で検討されており、平成30年の秋頃まとまる予定といわれています。その結果が示された後は、これも手がかりにしてください。

●単位修得試験の評価基準

テキスト等を熟読した上で著者の意見と自分自身の意見を区別して記述している。

自分の意見を述べる際に根拠を明確にしている。

教育課程の基準である学習指導要領についての知識を有している。

●配本予定テキスト

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版 平成29年
- (2) 田村学『平成29年改訂小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間』ぎょうせい 2017
- (3) 安彦忠彦『改訂版教育課程編成論 学校は何を学ぶところか』放送大学教育振興会 2006

●参考文献等

- (1) 文部科学省ホームページ「新学習指導要領（平成29年3月公示）」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm
- (2) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成28年12月21日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
※過去の答申では例えば次のもの。
 - ・教育課程審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について（答申）』平成10年7月29日
- (3) 新しい学習指導要領
 - ・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社 平成29年
 - ・文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房 平成29年
 - ・文部科学省『高等学校学習指導要領』（出版社未定）平成30年
- (4) 新しい学習指導要領の解説
 - ・文部科学省『中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』東山書房 平成29年
- (5) 教師用指導資料（※平成20・21年改訂の学習指導要領を踏まえたもの）
 - ・文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』（小学校編）（中学校編）平成22年11月
- (6) 学習評価関係（※平成20・21年改訂の学習指導要領を踏まえたもの）

- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』平成22年3月24日
- ・文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」平成22年5月11日
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）』平成23年7月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）』平成23年7月

科目コード	012300
科目名	授業研究C（情報教育）
担当教員	今野貴之

●テーマ 「知識基盤社会における情報教育の実際と課題」

—情報通信技術（ICT）の活用を中心として—

本科目では、教育における ICT 活用に関する基本理念と実践上の課題の両面から研究することを目指します。

近年、情報通信技術（Information and Communication Technology 以下 ICT）が進み、情報や知識が日常生活や社会生活の基盤をなす知識基盤社会といわれています。そのような中で、その恩恵をもっとも享受すべき教育において、ICT の活用は未だ十全ではない状況にあります。たとえば、教育現場では ICT 環境が整備されつつありますが、それを用いて授業を行う教授者側の準備が整っていないことや、学習者の学習特性に対応できるような学習環境を満たし得ていない状況があります。さらに、学校教育において ICT を授業・学習面と校務面の両面で ICT を積極的に活用するための基本的な理念や方法論が確立されていないことも大きな問題のひとつとして挙げられます。

以上のような観点から、本科目においては、知識基盤社会において ICT の役割とは何か、現在の教育上の様々な問題の解決に ICT がいかに貢献し得るのか、教育における ICT の現時点における利用はどのように評価できるのかなど、教育における ICT 活用に関する基本理念と実践上の課題について考えていきたいと思えます。

●研究の視点

- (1) 知識基盤社会の特徴と教育への影響
- (2) 情報教育の理念
- (3) 教育ツールとしての ICT の有用性と限界
- (4) 教授者の対応、事例研究

●レポート課題と学習ポイント

課題1 知識基盤社会における学校及び教育のあり方について論じなさい。

情報化社会から知識基盤社会へ進んだ近年、その影響は社会・経済活動及び日常生活にも大きく及んでいます。そのことは、教育においても例外ではない状況です。特に、学習者に対し何を習得させるのかという「学習内容」と、教育の実践において ICT をいかに活用し、教育効果を高めるのかという「方法論」の両面から知識基盤社会を考えることが必要とされています。本課題では、以上のような事項について全般的に考察してください。具体的に、この課題1について論じるためには、以下の3つの観点を踏まえてテキスト及び参考文献を読み込み、学習を深めることが望まれます。

第1に、知識基盤社会の意味を ICT の進歩と普及の観点から整理する必要があります。特に、教育におけるネットワークとメディア技術の現状と動向が重要です。

第2に、知識基盤社会における情報教育の位置付けを明らかにする必要があります。知識基盤社会において求められる資質のひとつとして、情報活用に関する基本的な能力である情報リテラシーがあります。しかし、その内容は必ずしも明確ではなく、教育の現場においても適切に学習される環境が確立されていないのが現状です。さらに教授者に求められる資質のひとつとして ICT 活用指導力があげられています。以上のことから、知識基盤社会において求められる資質を従来の教育内容と合わせて整理した上で、どのような情報教育をいかに進めるかについて考察してください。

第3に、現在、ICT が教育現場でどのように活用され、その効果を上げているのか、実際の適用上でどのような問題が生じているのか、学校及び教授者はどのように対応しているのか等の実態をテキストや参考文献に留まらず調べる必要があります。例えば、(1) 教育現場において ICT はどのような学習場面でもちいられているのか、(2) 学習者の個性・学習特性に応じた個別教育をどのように実施しているのか、(3) ICT を家庭へ持ち帰ることによる課題はなにか、(4) セキュリティを確保するためにどのような方略があるか等の視点をもって事例を調べてみてください。

以上の3観点を整理すると同時に、適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら知識基盤社会における学校及び教育のあり方について論じてください。

課題2 次の2問のうち1問を選択して論じなさい。

課題2は選択課題(2題中1題選択)ですが、いずれの課題も今日の教育現場におけるICTの利活用について、教授者と学習者の双方の立場から考察することを目的としています。各課題についてテキストや参考文献のまとめにとどまらず、教育実践を調査・分析・考察することを求めます。

① 教育現場の今日的な基本問題の解決におけるICTの可能性と限界について論じなさい。

現在、教育現場における様々な問題に教授者は直面していますが、ICTはそれらの問題を解決するようなきっかけを与えてくれています。たとえば、ICTを教育に用いることによって個別教育の可能性がひろがり、学習者の興味、意欲、学習効果を高めるものと期待されています。また、特別な支援が必要な学習者への対応や、不登校児問題への解決方策としても期待され、実際、不登校児の学習、学級への復帰に効果を上げているという事例も報告されています。さらに教授者自身の教材研究の時間短縮にもつながるなど、ICTの可能性が取り上げられている現状があります。しかし、その実態はどのようなのでしょうか。ICTは教育自体の基本問題にどこまで貢献し得るのか、その限界は何かを適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察してください。

② ICTを活用した国内外の遠隔教育や共同研究の進め方の事例をひとつ取り上げ、実施上想定される課題について解決への基本的な考え方を述べなさい。

ICTの教育への活用の可能性はネットワークの普及によって拡大し続けています。特に、インターネットの普及は、教育現場において高度な技術を必要とせずに世界中の学校、生

徒との交流を可能にしています。さらに、インターネットを活用して、各種機関から多様な情報を入手するだけでなく、Web サイトの開設を通じ、情報を世界中に発信することもできる状況が整っています。たとえば、初等中等教育であれば、インターネットを通じた遠隔地の学校との交流を通じて、統一テーマについての議論を深めることや、相互理解を深めるという経験も実践されています。また、高等教育機関であれば、テレビ会議システムやeラーニング等を用いて遠隔教育をおこなうことや、他機関との共同研究を行うことも行われています。このようなネットワークを介した国内外の遠隔教育や共同研究の進め方を考察するとともに、教授者側に求められる体制、従来の学習形態との調和等、実施に向けて解決しなければならない課題についても整理し、適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察してください。

● 単位修得試験の評価基準

- * 試験問題のポイントを適切に把握して記述しているか。
- * 試験問題と関連する「レポート課題と学習ポイント」で示された内容を踏まえた解答になっているか。
- * 参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察されているか。
- * テキストや参考文献からだけでなく、自身の考察を踏まえた論理展開になっているか。

● 配本予定テキスト

1. 久保田賢一・今野貴之【編著】 『主体的・対話的な学びの環境と ICT～アクティブラーニングによる資質・能力の育成～』 東信堂 2018
2. 舟生 日出男【編著】 『教師のための情報リテラシー』 ナカニシヤ 2012
3. 山本 順一・気谷 陽子【編著】 『三訂版 情報メディアの活用』 放送大学教育振興会 2016

● 参考文献

1. 文部科学省編 『教育の情報化の推進』 2016
2. R. Keith Sawyer【原著】大島 純・森 敏昭・秋田 喜代美・白水 始【監訳】望月 俊男・益川 弘如【編訳】 『学習科学ハンドブック 第二版 第2巻：効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ』 北大路書房 2016
3. P. グリフィン, B. マクゴー, E. ケア【編】 三宅 なほみ【監訳】益川 弘如・望月 俊男【編訳】 『21世紀型スキル：学びと評価の新たなカタチ』 北大路書房 2014
4. 岡田 正・高橋 参吉・藤原 正敏【編著】 『ネットワーク社会における情報の活用と技術 三訂版』 実教出版株式会社 2010

科目コード	012400
科目名	授業研究D(教育社会学)
担当教員	須藤康介

●テーマ 教育社会学

近年の「教育問題」に関する教育社会学の研究知見を学び、子供・家庭・学校が抱えているさまざまな問題を、常識に捉われずに多面的に考察するスキルを身につける。現代の学校の中では何が起きているのか。学校の外では何が起きているのか。両者はどう関係しているのか。教育の役割や課題、そして今後の在り方について社会学的に検討する。

●研究の視点

教育社会学の特徴は、①エビデンスの重視、②脱常識、③格差・不平等という視点、④現代の見取り図の提示にある。大学院生は、これらの視点を身につけるだけでなく、実際にこれらの視点に基づく研究を行えるようになることが期待される。

●レポート課題と学習ポイント

課題 1 テキスト『教育問題の「常識」を問い直す』を精読し、その中から特に興味を持ったテーマを一つ選び、関連する先行研究を検討し、自らの考察を述べよ。

課題 2 テキスト『子どもたちの三つの「危機」』を精読し、その中から特に興味を持ったテーマを一つ選び、関連する先行研究を検討し、自らの考察を述べよ。

テキストの内容を要約しただけでは不可であり、テキストの内容と関係のない持論を述べても不可である。「○○という点について、自分は××だと考える。なぜなら……」のように、テキストの内容と先行研究をふまえた考察を論述する。自分の経験を絶対視するのではなく、さまざまな理論やデータに目を向けて議論することが求められる。テキスト以外に参考にした文献を、レポート末尾に明記すること。

●単位習得試験の評価基準

論述問題を2問出題する。教育社会学の先行研究を学習しているかどうか、教育現象を社会学的に考察することができているかどうか、の二つの観点から評価を行う。

●配本予定テキスト

- (1) 須藤康介 2017『教育問題の「常識」を問い直す』明星大学出版部。
- (2) 恒吉僚子 2008『子どもたちの三つの「危機」』勁草書房。
- (3) 須藤康介 2013『学校の教育効果と階層』東洋館出版社。

●参考文献

岩井八郎・近藤博之編 2010『現代教育社会学』有斐閣ブックス。

須藤康介・古市憲寿・本田由紀 2012『文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版。

広田照幸 2011『教育論議の作法』時事通信社。

本田由紀編 2015『現代社会論』有斐閣ストラディア。

日本教育社会学会は、年2回『教育社会学研究』という学術雑誌を刊行している。最新の研究成果が掲載されているので、参考になる。Web上でも閲覧できる。

科目コード	012500
科目名	授業研究E (教育心理学)
担当教員	杉本明子

●テーマ 「教授・学習における社会文化的状況と社会的相互作用」

現代の教育現場が抱える大きな問題の1つに、学習における疎外状況、すなわち、学校での学習と日常生活における学習が乖離している状況があると考えられます。学校の教室は実際の社会や日常生活から切り離され、個々の学習者は教師から教えられた抽象的な知識やスキルの暗記・反復練習を行っているということがしばしば指摘されてきました。

近年、このような脱文脈化された個別の学習に対する批判から、社会文化的状況・活動と統合された学習や共同学習の重要性が認識されるようになり、教育心理学・認知心理学の分野においても、状況的学習論に基づいた実践研究や共同の問題解決・学習に関する研究が行われてきつつあります。

本科目では、状況的学習や共同の問題解決・学習において、具体的にどのような状況・活動が学習者の認知発達や学習を促進するのか、教授・学習活動においてどのような社会的相互作用が望ましいのかについて、教育心理学・認知心理学において大きな影響力を及ぼしたピアジェとヴィゴツキーの文献、及び、状況的学習論に関する文献を通して考えることを目的としています。

●研究の視点

- (1) 教育心理学・認知心理学における代表的な教授・学習理論の理解
- (2) 実践共同体での状況に埋め込まれた学習と従来の学校における学習の比較
- (3) 教授・学習における望ましい状況・活動や社会的相互作用についての考察

●レポート課題と学習ポイント

課題1 『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』と『ヴィゴツキー：教育心理学講義』を読み、ピアジェとヴィゴツキーの各々の理論で想定されている望ましい「対話と学習」のあり方を、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズム等の観点から比較検討しなさい。また、それぞれの長所・短所について述べなさい。

ピアジェとヴィゴツキーは、教育心理学における教授・学習研究に大きな影響力を与えた研究者であり、現在でも世界中の多くの研究者はピアジェやヴィゴツキーの教授・学習理論に基づいた研究枠組みで研究を行っています。

しかし、ピアジェ理論とヴィゴツキー理論で想定されている効果的な「対話と学習」のあり方は様々な点で異なっています。例えば、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の

目的、対話スタイル、学習のメカニズムという観点からみると両者は明確な違いがあります。ピアジェ理論とヴィゴツキー理論の各々で想定されている対話者間の関係性は認知的・社会的に対等でしょうか、それとも、非対等でしょうか。対話の目的、すなわち、学習における対話で目指すものは何でしょうか。どのような対話のスタイルが用いられているのでしょうか。どのような学習のメカニズムが想定されているのでしょうか。

本課題では、『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』と『ヴィゴツキー：教育心理学講義』を熟読し、また、できれば『文化と進化の心理学：ピアジェとヴィゴツキーの視点』等の参考文献も参考にして、各々で想定されている大人と子ども、子供同士の「対話と学習」のあり方について、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズム等の観点から比較・検討してください。また、各々の理論の長所と短所に関しても考察し、自分の考え述べてください。

課題2

レイブ&ウエンガー (J. Lave & E. Wenger) の『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』を読み、従来の学校における教授・学習活動と実践共同体における学習活動を比較検討するとともに、これらに関してあなた自身の考えを述べなさい。

教育心理学、認知心理学においては、伝統的に実験室的状況で人工的な課題を与え、個人がどのように情報を知覚、操作、解釈するのかを明らかにすることに焦点が当てられていましたが、近年、学習が本来持っている状況性を考慮する必要性が指摘されてきました。特に、レイブ&ウエンガー (J. Lave & E. Wenger) が民俗誌的研究の成果に基づいて行った「状況的学習」(situated learning) の理論的考察は、学習研究に多大な影響を与えました。

本書において、レイブ&ウエンガーは、学習を個人の頭の中の出来事ではなく、実践共同体への正統的周辺参加 (Legitimate Peripheral Participation: LPP) として特徴づけています。すなわち、学習は、個々の学習者が抽象的な知識の断片を獲得し、それを後に別の文脈において使用することではなく、実践共同体において実際に仕事の過程に従事することによってその共同体の様々な活動を遂行する技能を獲得していく、という状況の中に位置づけて考えられるものだとしています。

レイブ&ウエンガーが紹介している実践共同体での学習活動と従来の学校の教室における教授・学習活動を比較してみてください。実践の目的、人間関係、知識・技能の習得過程等の様々な点において大きな違いを見つけることができるでしょう。これらを比較検討した結果を基にして、望ましい教授・学習の状況・活動や社会的相互作用に関して、あなた自身の考えを書いてください。

●配本予定テキスト

- (1) ジャン・ピアジェ (著) /シルビア・パラット＝ダヤン & アナスタシア・トリフォン (編) /芳賀純 & 能田伸彦 (監訳) /原田耕平, 岡野雅雄, & 江森英世 (訳) (2005) 『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』 三和書籍
- (2) ヴィゴツキー (著) /柴田義松 & 宮坂瑠子 (訳) (2005) 『ヴィゴツキー：教育心理学講義』 新読書社

- (3) ジーン・レイブ & エティエンヌ・ウエンガー (著) / 佐伯胖 (訳) (1993) 『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』 産業図書

●参考文献

- (1) 高取憲一郎 (著) (2000) 『文化と進化の心理学：ピアジェとヴィゴツキーの視点』 三学出版
- (2) 白井桂一 (編著) (2005) 『21世紀への知：ジャン・ピアジェ』 西田書店
- (3) ヴィゴツキー (著) / 土井捷三 & 神谷栄司 (訳) (2003) 『「発達」の最近接領域』の理論－教授・学習過程における子どもの発達』 三学出版

科目コード	012510
科目名	授業研究F（教育行財政）
担当教員	樋口修資

●テーマ 「転換期の学校教育と教育行政の役割・課題を考える

—先進各国の教育改革の動向と我が国の教育政策の展開を中心として—

1980年代以降、英米などにおいては学校教育の質の向上に向けた教育改革が重要な政策アジェンダとなり、ナショナル・カリキュラムとしての「教育スタンダード」の設定やナショナル・テストによる評価の導入により、子どもたちの学力向上を図るとともに、学校の「説明責任」の強化と「教育サービス」における保護者の「消費者主権」の視点に立った「学校選択制」、「教育バウチャー」、「学校評価と監査」、地域住民・保護者などの地域の学校参画の仕組みの整備（例＊英国の学校理事会制度の強化）など様々な学校改革が強力に推進されてきている。これらの改革方策の背景にある思想は、新自由主義に基づく「市場主義」や「競争原理」にあることはよく知られているが、この教育改革思想が、公教育における「平等性・公正性」を重視するよりも、「競争性・効率性」による教育の「活性化」と「教育の質の向上」を図ろうとするものであることは自明である。

こうした国際的な教育改革の動向の中で、わが国の学校教育も、1980年代以降、「いじめ」や「不登校」、「校内暴力」、「中途退学」の増大・激化等の教育問題が拡大し、また、2000年に入ると、「生きる力」の育成を目指した新学習指導要領の改訂が、教育内容の厳選・授業時数の縮減等による、いわゆる「学力低下」問題を惹起するとともに、それをめぐる論争を呼び起こし、学校教育に対する社会的信認が揺らぎつつある。

長い間、わが国の学校教育は、経済発展の原動力であり、持続可能な社会経済を支える基盤としての高い評価を受けてきた状況は一変し、学校教育の「制度劣化」と社会的信頼の低下が問われるような状況に陥っていることは否めない。

こうした状況の下で、先進各国の教育改革の動向も踏まえつつ、わが国の教育政策において、地域や社会に信頼される学校づくり、あるいは、国民の期待にこたえる学校と教育の質の向上に向けて様々な改革方策が展開されつつあるが、これらの教育改革方策を「公教育の制度と理念」の視点に即して、どのように評価し、また、課題と思われる政策については、どのような代替的な改革方途がありうるのか、考察・研究を行うことをこの授業研究のねらいとします。

●研究の視点

- (1) 他国の教育改革が我が国の教育政策の展開に及ぼす影響の分析
- (2) 教育改革の背景にある理念と思想（公共性・平等性 v s 私事性・競争性）の考察
- (3) 教育の質向上のための「教育条件整備」及び「教育内容」行政の在り方の研究
- (4) 学校教育への信頼性を高める学校の「説明責任」の在り方の分析
- (5) 教育改革における教育行政の役割と課題についての考察

●レポート課題と学習ポイント

課題 1 文部科学省「諸外国の教育改革の動向」における米国・英国の教育改革の背景・経緯と改革の方向性、及び藤田英典著「教育改革」を読み、公教育の制度理念に照らして、英米の教育改革の背景思想と改革方策をどう評価するか、また、わが国の教育改革にこれらの改革はどのような影響を及ぼしているか、その功罪について述べなさい。

今日、学校の質の向上を図るための教育改革が、どの国においても国政上の重要課題となっていますが、教育改革を考える上で、留意すべきは、従来長い間、教育はすぐれて「一国的」な性質をもつものとして、それぞれの国の歴史的・文化的・社会的文脈の下で形成されてきた「個性的」なものであると理解され、それゆえ、改革の処方箋は、その国の特有の背景や条件を踏まえて検討されるべき課題と観念されてきたといえることである。

しかしながら、グローバリゼーションが急速に進行する中で、各国は、国際競争力のある社会経済づくりのための競争力ある人材育成を図ることを至上命題とし、それゆえ、「公教育」の質向上こそが、国際競争力の強化の要石であるとの認識に立って、教育制度等の国際的な比較分析も行いつつ、学校教育改革に積極的に取り組む状況にある。

そうした各国の教育改革は、「他国に学ぶ」こともいとわず、教育の質向上のための「成功事例に学ぶ」、あるいは「失敗事例に学ぶ」ことを通じて自国の教育政策を検証していくことが、各国教育政策担当者の共通の認識となりつつある。

こうした文脈の中で、英米における教育改革の最新動向は、どのような理念や背景に支えられ、どのような成果を挙げているのかどうか吟味しつつ、わが国の教育改革に取り入れることが妥当かどうか考察することは教育行政が当面する現代的課題であることといえる。

英米における教育改革の影響は、實際上、わが国公教育にも深く及んでいることも事実であり、これらの改革方策が成果を挙げているかどうか、また、教育上の成果を挙げているとするならば、どこに課題と問題が含まれているのか等を検証し、その上で、わが国の学校教育の改革を図る上でどのような改革の選択肢が望まれるのか積極的に研究・考察をするという姿勢でこの課題に取り組んでいただきたい。

課題 2 自由課題（以下の5問のうち1問を選択して、レポートをまとめなさい。）

①英米各国における教育改革では、中央政府や州政府の教育権限の強化が見られるが、わが国においては、これまでのように中央集権的な教育行政から地方分権的な教育行政への移行が進められており、こうした中で、わが国の教育行政における国と地方との役割分担についてどう考えるか、英米における改革動向も参考としつつ論じなさい。

②学校教育の質向上を図るためには、どの国の教育政策においても、教育条件整備行政の役割は大きく、そのための教育財政の充実喫緊の課題といえるが、英米などの諸外国との比較において、わが国の義務教育行財政の仕組みはどのような特徴があり、また、今日的にどのような課題と問題を抱え、どのような改革が図られるべきと考えるか論じ

なさい。

- ③近年の教育改革においては、学校の自主自律性の強化と相俟って学校の「説明責任」が強調されるようになってきているが、英米の教育改革の実例も参考としつつ、これからの学校経営は、具体的にどのような仕組みによって、学校教育の質向上に向けた説明責任を果たしていくことができるのか論じなさい。
- ④英米における教育改革では、子どもたちの学力の向上を図るため、わが国の学習指導要領のように、「教育スタンダード」を国・州レベルで設定し、学校における教育指導の成果を、「教育スタンダード」に基づくナショナル・テスト等によって検証し、テスト結果の公表を通じて学校評価や保護者の学校選択にも活用するという仕組みを設けているが、このような仕組みの整備の課題と問題点を含めその功罪について、わが国の実情にも照らして論じなさい。
- ⑤英国における全国的な学校選択制の導入や米国における「教育バウチャー」制の取り組みの拡大など、英米の教育改革においては、保護者の「消費者主権」の立場に立った学校活性化の方策が試みられ、このような学校選択制度の動きは、わが国でも広がりを見せているところであるが、「学校選択制」や「教育バウチャー」の是非について、わが国の学校制度・就学制度との関連も踏まえて論じなさい。

課題1について研究・考察を深める過程において、自由課題である課題2を視野において研究・学習を進めるよう期待します。課題1は英米における教育改革の総括的な分析と我が国の教育改革に及ぼす影響等を考察することを求めています。それらの分析・考察を通じて、個別の教育改革の方策についても、テキスト及び参考文献を熟読する中で、考察を深めていただきたいと思います。

課題2では、英米の教育改革の背景理念や思想とその基本的な改革方向が、具体の改革方策にどのように反映し、わが国の教育政策にもどのような影響を与えているか考察するとともに、そうした改革方策の功罪や是非について、公教育の制度理念に即してどう評価すべきかを検討することを期待しており、検討に当たって、学校教育の本質に照らして、教育と教育行政はどうあるべきか、自分なりの意見や考え方を形成するよう心がけてください。

● 単位修得試験の評価基準

- * 試験問題のポイントを適切に把握して記述しているか。
- * 試験問題と関連する「レポート課題と学習ポイント」で示された内容を踏まえた解答になっているか。
- * 自身の意見や考えを取り入れた記述になっているか。

● 配本予定テキスト

- (1) 佐貫浩 著『イギリスの教育改革と日本』高文研 (2002年)
- (2) 江原武一 著『現代教育改革論－世界の動向と日本の行方』放送大学教育振興会 (2011年)
- (3) 坂野慎二、藤田晃之 編著『海外の教育改革』放送大学教育振興会 (2015年)

●参考文献

1. 中央教育審議会答申 『新しい時代の義務教育を創造する』(2005年)
2. 藤田英典 著 『義務教育を問い直す』ちくま新書 (2005年)
3. 藤田英典 著 『誰のための「教育再生」か』岩波新書 (2007年)
4. 原田信之編 著 『確かな学力と豊かな学力～各国教育改革の実態と学力モデル』ミネルヴァ書房 (2007年)
5. ミルトン・フリードマン 著 『選択の自由』講談社文庫 (1983年)
6. 大桃敏行ほか 編 『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房 (2007年)
7. 小川正人 著 『教育改革の行方』ちくま新書 (2010年)
8. 樋口修資 『教育行政と学校経営』明星大学出版部 (2008年)

科目コード	012600
科目名	幼児教育研究A（保育）
担当教員	齋藤政子

- テーマ 「我が国の保育の歴史と保育所・幼稚園の保育実践」
「近年の子ども・家族の実態と保育ニーズ」
「保育者の専門性と『保育の質』」

- レポート課題と学習ポイント

課題1 わが国の保育施設（幼稚園・保育所）は、どのように成立し、どのような役割が期待されてきたか、子どもや家族の実態と、保育ニーズの変遷を視野に入れながらまとめてください。

課題1に取り組んでいくと、近年の子どもと子育ての実態と、保育が変化せざるをえない要因が見えてきます。我が国の保育園と幼稚園の成立過程を踏まえつつ、近年、保育施設でみられる子どもの実態や、地域・家庭で抱える子育て困難などについても触れ、保育ニーズがどのような変遷をたどってきたのか、その際、どのような保育実践が積み上げられてきたのか、それはどう評価されているかについて書き加えてください。

レポートは、日本の保育施設が、どのような役割を果たしてきたのかについてトピックを挙げながら「明治期」「大正期」「昭和・戦時体制期」「戦後改革期」「高度経済成長期」「それ以降」くらいに分けて説明し、その際、子どもや子育ての実態やその時期の保育ニーズを踏まえて日本の保育を俯瞰するように工夫されるとよいと思います。

保育ニーズとの関連で見ると、歴史的には、日本の保育はどうみえるのか、あるいは、21世紀に入った日本の保育の実態は、歴史的にみてどうなのか、全体を把握したあと、各論に入って議論を展開すると、オリジナリティが発揮された個性的なレポートとなるのではないかと思います。

課題2 以下の2問の中から1問選択して、レポートをまとめなさい。

①子育ての変遷と子育て困難、及び子育て支援のあり方について、3歳児神話や両性のパートナーシップと絡めながら論じなさい。

②保育者の専門性と「保育の質」について、どのような議論や課題があるのか、テキストを引用しながら論じなさい。

①では、子育てやしつけは、日本では衰退したのではなく、日本の家族そのもの、子育てそのものが変化したのだという言説や、そもそも子どもが育つ基盤となる生活環境が変化したのだという意見もあります。それでは、子育ては、我が国では近年どのように変化し、どのような子育て問題が存在しているのか、子どもという客体の問題と子育てする側

の主体の問題に分けて説明し、特に、子育てする側の問題や子育て支援のあり方について、3歳児神話や母性神話をどうみるか、両性のパートナーシップはどうあるべきかなどに触れながら論述してください。

②の課題を書くためのテキストは、「幼児教育研究演習A（保育）」「教育学演習Ⅰe」でも使用します。「保育の質」研究は、国際的にも関心が高まっており、OECD報告書でも、質の議論の枠組みを紹介し、改善の必要性について説明しています。「保育の質」議論の必要性や、「保育の質」の構造化などについては、テキストの中にも触れられており、そのほか参考書の中でも多くの研究が報告されていますので、それらを参考にしつつ、保育者に必要な専門性と「保育の質」との関連について論述してください。特に日本保育学会編の『保育学講座』は参考になります。

●配本予定テキスト

- (1) 宍戸健夫 『日本における保育園の誕生』 新読書社 2014
- (2) 大日向雅美 著 『母性の研究 その形成と変容の過程：伝統的母性観への反証』 日本評論社 2016
- (3) 日本保育学会 編 『保育学講座4 保育者を生きる 専門性と養成』 東京大学出版会 2016

●参考文献

- (1) 齋藤政子 編著 『子どもとつくる4歳児保育』 ひとなる書房 2016
- (2) 日本保育学会 編 『保育学講座』 全5巻 東京大学出版会 2016
- (3) 諏訪きぬ 編著 『改訂新版 現代保育学入門』 フレーベル館 2009
- (4) 金田利子・諏訪きぬ 他編著 『保育の質の探究』 ミネルヴァ書房 2000
- (5) 岡田正章 『保育制度の展望』 ぎょうせい 1986
- (6) 浦辺史也 編 『保育の歴史』 青木書店 1981
- (7) 森上史朗 『児童中心主義の保育』 教育出版 1984
- (8) 神田英雄・村山祐一 『保育の理論と実践講座 第1巻 保育と何か』 新日本出版社 2009
- (9) 諏訪義英 『日本の幼児教育思想と倉橋惣三』 新読書社 1992

科目コード	012700
科目名	幼児教育研究B（児童文化）
担当教員	羽矢みずき

●テーマ 「子どもの成長と文化」

児童文化研究とは何か。従来は教育現場などで使われる絵本、紙芝居、児童文学、おもちゃなどの児童文化財を研究対象とする分野でした。ところが最近の児童文化研究は、大人が子どものために用意した文化財に関する考察を大きく踏み越えようとしています。子どもが衣食住、さらには自然環境や都市景観などまでも含む諸文化と関わる中で、どのように成長していくのかということを考える分野に変化してきています。児童文化財の研究を、それらの受け取り手である子どもたちの観察をもとに深めていくだけではなく、こうした児童文化研究の新しい動向をみながら進めていきたいと考えます。

●研究の視点

- (1) 自分自身の成長と諸文化との関わり。
- (2) 「原体験・原風景」とは何か。
- (3) 児童文化財それぞれの歴史と現在のあり方。そして、子どもたちをめぐる状況の変化との関連。
- (4) 児童文学作品に表れた子ども像、子ども観の考察。
- (5) これからの児童文化研究はどうあるべきか、それはどのようにして可能か。

●レポート課題と学習ポイント

課題1

自分自身の幼児期から小学校時代頃までを振り返り、「私の遊びの歴史」を記述しなさい。そこから発展して、自分にとっての「原体験・原風景」とは何かということについて書きなさい。

「私の遊びの歴史」を記述することによって、児童文化および児童文化研究について考えるための視点形成をします。

記述する際には、それぞれの遊びをいつ(何年ごろ、何歳で)、だれと(どういう仲間と)、どこで(どのような自然・都市環境のなかで)、どのように(その遊びのしかた、ルール)といったことを、できるかぎり精密に書いてください。一部年表形式にする、絵や図を入れるなど、記述のしかたについては十分に工夫をしてください。振り返ってみて、それぞれの遊びの場と時間から、自分が何を得たと思えるか(おもしろかったこと、学んだことなど)についても書いてください。参考文献(3)浅岡靖央他(編)『子どもの育ちと文化』の第5章「子どもの文化としての遊び」(師岡 章)や第6章「子どもの育ちと遊び」(木下 勇)が、自分の過去の遊びを思い出し、それを記述する際のヒントを与えてくれます。

参考文献(5)遠藤ケイ『子ども遊び大全』にも様々なヒントがあるでしょう。

そこから発展して、自分にとっての「原体験・原風景」とは何かということについても考えてほしいので、「原体験・原風景」については、参考文献(2)古田足日『子どもと文化』を読んでその意味をつかんでください。参考文献(6)奥野健男『増補 文学における原風景』や、同(7)岩田慶治(編)『子ども文化の原像』なども参考になります。

課題2

児童文学の作家・作品論を書きなさい。

まず、配本テキストである桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』(上)(下)(岩波文庫)に収められた作品を読んでください。日本の近代児童文学を概観できます。この中から、自分が興味や関心をもった作品の一つを選びます。作品が成立した時代の状況を考慮し、自分の興味や関心を深めて作家と作品について論じなさい。レポートの最初には、レポートのテーマや論点を表すタイトルをつけてください。

作品に表れた子ども像、あるいは、そこからうかがえる作者の子ども観などに注目して論じるのがよいと思いますが、論じる観点は様々です。ただ「素手」で論じるのではなく、勉強して書いてください。作品の扉に書かれた作者の紹介をたよりに、同じ作家の作品を数多く読んで考察を深めるのもよいでしょう。あるいは、巻末の解説を参考にして、同じようなテーマを扱っている他の作家の作品や、当該の作家とは対照的な仕事をしている作家の作品を読むというのも有効です。テキストに収められているのは、いずれも短篇ですから、同じ作家の作品を読むにしても、別の作家の作品を読むにしても長篇に取り組むとよいでしょう。

児童文学作品は、地域の図書館の児童室などで探してください。配本テキストの鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学』戦後編が読むべき児童文学作品を探すガイドになります。児童文学の現在の状況に至るまでにはどのような歴史があったのか、児童文学の現在の状況をどう見るべきかなどについては、配本テキストである鳥越信(編著)『はじめて学ぶ日本児童文学史』や、参考文献(8)宮川健郎『現代児童文学の語るもの』を参照してください。児童文学の歴史や現在について考える場合には、参考文献(9)雑誌『日本児童文学』の様々な特集を見るのもよいでしょう。日本児童文学者協会の機関誌で、1946年に創刊された雑誌です。地域の中央館的な図書館には、バックナンバーや復刻版が所蔵されていることもあります。明星大学の附属図書館にも一部所蔵されています。

●配本予定テキスト

- (1) 桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』(上)(下) 岩波文庫 1994年
- (2) 鳥越信(編著)『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房 2001年
- (3) 鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学』戦後編 ミネルヴァ書房 2004年

●参考文献

- (1) 古田足日『児童文化とは何か』久山社 1996年

- (2) 古田足日『子どもと文化』久山社 1997年
- (3) 浅岡靖央・加藤理(編)『子どもの育ちと文化』相川書房 1998年
- (4) 仙田満『子どもと遊びー環境建築家の眼ー』岩波新書 1992年
- (5) 遠藤ケイ『子ども遊び大全』新宿書房(のち、講談社+α文庫) 1991年
- (6) 奥野健男『増補 文学における原風景ー原っぱ・洞窟の幻想ー』集英社 1989年
- (7) 岩田慶治(編)『子ども文化の原像』日本放送出版協会 1985年
- (8) 宮川健郎『現代児童文学の語るもの』NHKブックス 1996年
- (9) 『日本児童文学』(日本児童文学者協会機関誌) 1946年

科目コード	012820
科目名	幼児教育研究C（児童家庭福祉）
担当教員	石田健太郎

●テーマ 「子育て支援の現在-子どもと家族をめぐる問いの立て方・語り方」

本科目は、家族扶養、とりわけ、子どもの養育に関する社会システムとしての児童家庭福祉のあり方についての基本的な知識の習得をするとともに、福祉社会的な視点から、「子どもと家族」の関係を捉えなおすことを目的としています。いいかえると、子どもの養育に関する私的領域としての家族と公的領域としての国家・社会との関係を再考すること、となります。こうした再考が必要となる社会的背景は、①人口構造の変容、②家族扶養規範の変容、③子どもの位置づけの変容、④これらの変容をふまえた社会政策・社会保障・社会福祉の変容、です。以上のような研究関心および研究背景にもとづいて、本科目では具体的には、以下のような事項を分析・検討することを課題とします。

子育て支援の必要性が社会的に認識され、さまざまな施策と実践が展開されるようになってからすでに十数年が経ちました。しかし現実には、子育て支援の目的は何か、その施策と実践の核は何か、その効果は何か、といったような事項について必ずしも明らかにされないまま、国家的プロジェクトとしての子育て支援が進められています。地域や施設、学校、医療現場の視点から子育て支援のケース事例を取り上げ、そのニーズ分析、施策、援助方法などの検討を通じて、専門職が身につけるべき視点や援助のあり方を学びます。

●レポート課題と学習ポイント

課題1 以下にあげる2つの選択課題から一つを選択して、論述を行なってください。

2つの課題は、いずれもその目的として、児童家庭福祉のあり方に関する基本的な知識及び福祉社会学の視点の修得を行うことにあるため、テキストを通読した上で、論述を行うことが望ましいです。なお、教員の立場や考え方は、参考文献にあげた教員の執筆論文に示されています。端的には、現象の説明を徹底して社会的要因にもとづいて行うというものです。また、基本概念の定義や行政の公開している統計データなどを持ちいながら、論述を行うといった、根拠にもとづいた論述が行われているかどうか、大切な評価ポイントです。

- ① 子育て支援における「ニーズ」について、家族規範・標準家族・規制・給付などの用語を用いながら、論述してください。
※配本予定テキストの(2)を主な学習教材として、その他テキスト・参考文献を用いながら論述をしてください。
- ② 児童虐待問題における「支援のあり方」について、リスク・貧困・ジェンダー・専門職などの用語を用いながら、論述してください。

※配本予定テキストの(3)を主な学習教材として、その他テキスト・参考文献を用いながら論述をしてください。

課題 2 あなたの住む自治体（市町村もしくは都道府県）で行なわれている子育て支援施策、実施されている（実施されてきた）子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）を自治体の資料をもとに調べ、その概要の紹介および課題を記述した上で、自身の評価を加えてレポートにまとめなさい。

※課題2のレポートの大きな目的は、ご自身の住む自治体の子育て支援の概要を掴むことにあります。子どもにかかわる仕事をしていても、自分が住んでいる自治体の具体的な施策の実施状況については知らないものです。経済的支援から相談支援まで多様な支援が行なわれており、こんなことまでと思われる施策もあれば、問題を感じずる施策もあるでしょう。論述の対象が多少偏っても構いません。しっかりとした調べ学習を行なった上で、分析・考察を行なってください。なお、本レポートでの取り組みは、演習科目における課題と連動しています。

●単位修得試験の評価基準

設問に対応して、基礎的なことをきちんと説明した上で、自分の考えを十分取り入れて作成された答案を合格とします。また、児童家庭福祉のあり方に関する基本的な知識及び福祉社会学の視点にもとづいて、考察を行えるようになっているかどうかも評価の対象となります。

●配本予定テキスト

- (1) 福祉社会学会編集（2013）『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く 98 の論点』中央法規
- (2) 松木洋人（2013）『子育て支援の社会学—社会化のジレンマと家族の変容』新泉社
- (3) 上野加代子編著（2006）『児童虐待のポリティクス—「こころ」の問題から「社会」の問題へ』明石書店

●参考文献

- (1) 岩田正美（2016）『社会福祉への招待』放送大学教育振興会
- (2) 山縣文治（2015）『少子社会の子ども家庭福祉』放送大学教育振興会
- (3) 上野加代子・小木曾宏・鈴木崇之・野村知二編著（2006）『児童虐待時代の福祉臨床学—子ども家庭福祉のフィールドワーク』明石書店（現在、版元からの入手が不可となっています。インターネットなどで中古で安価に入手が可能です）
- (4) 石田健太郎（2017）「家族らしくあることと保育」斎藤雅子編著『安心感と憧れを育てるひと・もの・こと』明星大学出版部
- (5) 垣内国光・櫻谷真理子（2002）『子育て支援の現在—豊かな子育てコミュニティの形成をめざして』ミネルヴァ書房（現在、版元からの入手が不可となっています）

科目コード	012920
科目名	幼児教育研究D（音楽教育）
担当教員	板野和彦

す。インターネットなどで中古で安価に入手が可能です)

●テーマ「保育・幼児教育の現場で行われる音楽指導の原理と実際」

幼稚園教育要領の「表現」のねらいには以下の3つの項目が挙げられています。

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

そしてこのようなねらいにもとづいて、現場で行われている実際の指導においては歌唱つまり歌うことと、音楽に合わせて体を動かすダンスや遊戯、リトミックなどが多く取り上げられています。歌うことと音楽に合わせて体を動かすことを音楽教育の中心にすえ、合理的で体系的な方法を考案した人物としてコダーイとジャック＝ダルクローズを挙げるすることができます。

ハンガリーの音楽教育家ゾルタン・コダーイは、子どもたちの保育の中で歌うことを重要視したメソッドを考案した人物として知られています。コダーイの教育法であるコダーイ・メソッドは、子どもたちが生活の中で、身近な歌、わらべ歌などを注意深く聴き取り、歌うことにより美しいものを感じ取る能力、注意力、言語能力などを高めることを目指しています。

一方、スイスの音楽教育家であるエミール・ジャック＝ダルクローズは、リトミックと呼ばれる独自の音楽教育法を創案しました。この方法では子どもたちが音楽を聴き取り、主にそのリズムに合わせて身体運動を行うことにより、注意力、集中力、思考力、創造性などを高めることを目指しました。

ほとんど同時代に活躍したコダーイとジャック＝ダルクローズの教育法は、それまで専門家、あるいは演奏家の養成が中心であった音楽教育の方向を転換し、誰でもできる歌うことや動くことを中心とした活動により子どもたちの成長を促そうとしたところに独自性があると考えられます。また音楽教育の目的についても演奏技術の習得、音楽的能力の伸長だけに終始することなく、人間の全体的能力の伸長を目指したこともまた後に大きな影響を及ぼしました。

本研究においては保育の中で行われる音楽に関する活動について考えてゆく際に、まずコダーイとジャック＝ダルクローズの教育法を取り上げ、その原理、方法、教材などの視点から検討してゆきたいと思います。このような方法により保育現場におけるより良い音楽指導のあり方を探ってゆくことが可能になると考えられます。

●研究の視点

- (1) 2つの教育法の原理の検討
- (2) 具体的な方法の検討

- (3) 2つの教育法において取り上げられる教材の検討
- (4) 2つの教育法を保育の現場に適用するための検討

●レポート課題と学習ポイント

課題1

『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』の「第3章 エミール・ジャック＝ダルクローズのアプローチ」と「第4章 コダーイ・メソード」を精読し、2人の音楽教育家による教育法の共通点と相違について述べなさい。その際に、それぞれの方法の基礎となる方法（コダーイ：歌うこと、ジャック＝ダルクローズ：聴き取りと身体運動）、目指す人間像（どのような能力を伸張することを目指しているか）、具体的な方法、教材、2人の教育家の生涯についてなどの項目に分けて記述してください。第12章を参考にすると書きやすいかと思います。

課題2 以下の2問について解答しなさい。

①『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』の「第8章 幼稚園—第1学年—第2学年」のコダーイとジャック＝ダルクローズの部分をそれぞれ精読し、これらを参考にしながら保育園・幼稚園の5歳児を対象とした「歌うことを中心とした活動」と「聴き取り身体運動を行うことを中心とした活動」の指導案を作成しなさい。指導の時間は30分程度とする。形式は自由とする。(2000字程度)

②『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』のp.126からp.129には音楽指導の中で用いるリズムおよび音階音の難易度順の一覧が掲載されている。これを参考にしながら「子どもたちが歌いやすい旋律、打ちやすいリズム」という視点を重視して、教材の選択、指導の進め方について考えるところを述べよ。(2000字程度)

(レポート課題2については、①・②を1冊のレポートにまとめて提出)

●配本予定テキスト

- (1) L. チョクシー 他著 『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』 全音楽譜出版社 1998
- (2) コダーイ芸術教育研究所 著 『わらべうた わたしたちの音楽—保育園・幼稚園の実践—』 明治図書出版 2009
- (3) 神原 雅之 著 『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』 チャイルド本社 1987

●参考文献

- (1) 読譜力—伝統的な「移動ド」教育システムに学ぶ (単行本)
東川 清一 (著)
- (2) ヴァージニア・ホッジ ミード著 『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』 ふくろう出版、2006

科目コード	013020
科目名	障害児者教育研究A（障害児者の学習・発達支援）
担当教員	廣瀬由美子

●テーマ 「知的・発達障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた指導支援の在り方について」

本科目では、共生社会の構築を目指すために、主として中枢系・認知(情報処理)機能の障害に対応する教育支援の必要な発達障害のある児童生徒を想定し、まずは特別支援教育の制度として位置づけられている特別支援学校（知的障害）、特別支援学級（知的障害/自閉症・情緒障害）、通級による指導（発達障害）における指導や支援について考えます。その上で、小中学校の通常の学級に在籍する、発達障害のある児童生徒に対する指導支援の在り方も検討します。

具体的には、知的障害の児童生徒を対象とする特別支援学校や特別支援学級、高機能自閉症等を対象とする自閉症・情緒障害特別支援学級、発達障害の児童生徒を対象とする通級による指導について、制度上の違いや教育課程の編成について学びます。

さらに、知的障害やLD、ADHD、ASDなどの発達障害に関して、各障害特性に対応した適切な指導と必要な支援の在り方について学びを深めることにより、障害者の権利に関する条約で求められている合理的配慮の内容や実施方法等について理解して頂きます。

博士前期課程の院生の皆さんには、以下に挙げた配本予定テキスト及び参考文献等による自学自習を通して、①特別支援教育における制度及び教育課程の編成について、②知的・発達障害の児童生徒に対する特別支援学校、特別支援学級、通級による指導及び通常の学級での教育的支援の在り方について、③知的・発達障害の児童生徒の学習や特性を踏まえた個別の教育支援計画及び個別の指導計画の在り方と実際について等、知見を深めて頂きたいと考えています。

●研究の視点

1. 特別支援教育の制度及び教育課程の編成について
 - (1) 特別支援教育の制度と理念について
 - (2) 特別支援学校（知的障害者）と特別支援学校（知的障害者以外）の教育課程の編成について
2. 知的・発達障害の児童生徒の学習や特性に基づく個別の教育支援計画及び個別の指導計画について
 - (1) 知的・発達障害の学習や特性について
 - (2) 個別の教育支援計画の考え方及び実際について
 - (3) 個別の指導計画の考え方及び実際について
3. 知的・発達障害の児童生徒に対する教育的支援の在り方
 - (1) 知的障害の児童生徒に対する特別支援学校・特別支援学級での教育的支援の在

り方について

(2) 発達障害の児童生徒に対する通級による指導や通常の学級での教育的支援の在り方について

●レポート課題と学習ポイント

課題1 知的障害及び発達障害のある児童生徒を対象とした特別支援教育の制度面を言及した上で、独自性あるいは共通性の視点から、彼らの教育的支援の在り方について考察しなさい。

*配本予定テキストおよび参考文献等を精読することを通して、院生自らのコメントを随所に交えながら言及することを期待します。

課題2 知的障害あるいは発達障害を選んだ上で、障害特性を踏まえながら、個別の教育支援計画と個別の指導計画の在り方について、可能な限り実際の、具体的な内容で論述しなさい。

*課題1同様、院生自身のコメントをまじえながら課題2に答えて下さい。

●単位修得試験評価基準

配本予定テキストおよび参考文献等を熟読し、院生自身の体験や意見、考察を含める形で論述すること。

また、レポートの構成（小項目を立てる）を踏まえて論述すること。

●配本予定テキスト

- (1) 梅谷忠勇・編著（2012）『知的・発達障害児の学習—心理と指導支援— 改訂』田研出版
- (2) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2015）『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』ジアース教育新社
- (3) 菅真眞弓・廣瀬由美子 編著（2015）『特別支援学級をはじめて担任する先生のための国語・算教授業づくり』明治図書

●参考文献

- (1) 宇野宏幸・井澤信三・小島三生 編著（2010）『発達障害研究から考える通常学級の授業づくり』金子書房
- (2) 廣瀬由美子・佐藤克敏 編著（2006）『通常の学級担任がつくる個別の指導計画』東洋館出版社
- (3) 海津亜希子（2007）『個別の指導計画作成ハンドブック』日本文化科学社
- (4) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2014）『共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例』ジアース教育新社
- (5) 宮崎英憲・是枝喜代治 編著（2012）『特別支援教育 個別の指導計画を生かした学習指導案づくり』明治図書

科目コード	013100
科目名	障害児者教育研究B（障害児者自立支援）
担当教員	島田博祐

(6) 佐藤慎二 (2013) 『特別支援学校 特別支援学級 担任ガイドブック』東洋館出版社

●テーマ

「知的・発達障害児者の就労及び地域生活に向けての移行支援と生涯学習について」

知的・発達障害児者に対する教育指導は従来、発達年齢を重視したボトムアップ型のもので中心であったが、その指導内容と現実生活が乖離し、自立した社会生活につながらない場合が多かった。そうした反省点から、個々のケースの生活年齢を重視し、現段階で可能なレパトリーを最大限利用して必要とされるスキルを獲得し、社会適応を目指すトップダウン型アプローチが重視されるようになってきている。

ジョブコーチモデルは就労支援におけるその代表的な例である。障害児も成長し青年期・成人期・壮年期・老年期に至る過程を経過していくことから、学齢期において卒業後の自立した職業生活および地域参加に結びつく教育内容を考慮することが大切であり、生涯発達支援を踏まえた移行支援の発想が不可欠となる。米国の IEP (Individualized Educational Program: 個別教育計画)、ITP (Individualized Transition Plan: 個別移行計画)、IPE (Individualized Plan of Employment: 個別就労計画) はこうした視点に立ち、生涯発達支援を支えるラインとして整備されたものである。

また、充実した地域生活を実現する為に、PCP (Person Centered Planning=本人主体の計画) の視点に立つ個別支援計画が求められる。計画の基礎となるケアマネジメントにおけるニーズアセスメントで、障害のあるサービス利用者の適切な自己選択、自己決定が必要となるが、それには小中高の学校教育の中で得られた知識では不十分な面も出てくる。そこに余暇や社会参加の意味も加わり、QOL (生活の質) の向上にとっても重要であることから、知的・発達障害者の生涯学習を支援する必要性が増している。

本特講では、上記の観点を踏まえ、地域における主体的な職業的、生活的自立を目指すための移行支援や生涯学習支援について、考察を深めることを目的とする。

●研究の視点

- (1) 青年期以降の知的・発達障害者の抱える問題
- (2) 障害者の自立とは—障害者福祉と障害者の就労、地域生活支援
- (3) 生涯学習に関する支援の必要性

●レポート課題と学習ポイント

レポートは以下の3課題から、自身の研究テーマに沿って**2課題選択**し提出してください。

課題1

知的障害者の充実した職業生活、地域生活を支えるにあたり、IEP、ITP、IPEの内容を吟味し、何故そのような教育計画が必要であるのかを、生涯発達支援の観点から論じ、さらに福祉領域における地域生活支援のあり方も併せ、日本における移行支援計画の課題について、思うところを述べよ。

課題2

援助つき雇用の有効性に関して、従来の伝統的職業リハビリテーションとの比較から述べ、ジョブコーチの役割と課題についても論じなさい。

課題3

知的障害者の生涯学習に関する支援の実践例と今後の課題に関し、思うところを述べよ。

●配本予定テキスト

- (1) 梅永雄二・島田博祐編 『障害児者の教育と生涯発達支援・第3版』 北樹出版 2015
- (2) オープンカレッジ東京運営委員会編 『知的障害者の生涯学習支援—いっしょに学びともに生きる』 東京都社会福祉協議会 2010
- (3) 日本発達障害学会監修 『キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援』 福村出版 2016

●参考文献

- (1) 小川浩・梅永雄二・志賀利一 『ジョブコーチ実践マニュアル』 筒井書房 2000
- (2) 梅永雄二他 『こんなサポートがあれば2』 筒井書房
- (3) 渡辺明弘編著 『軽度の知的障害のある生徒の就労を目指した青年期教育』 2014 黎明書房

科目コード	013200
科目名	障害児者教育研究C（小児保健）
担当教員	星山麻木

●テーマ 「乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題」

障がい児教育から特別支援教育への転換期にあたる現在、特別支援教育の課題は山積しています。そこで、この科目では、特別な支援を必要とする子どもたちのなかでも、特に乳幼児期から学童期の子どもたちの支援に注目して、特別支援教育の課題と支援方法について多角的に学びます。教育、福祉、医療との連携、或いは連携を促すための実践的な支援方法や工夫など、自ら課題を見つけ、考察を深めます。

●研究の視点

- (1) 乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題を見つける
- (2) 支援方法を見出す
- (3) 自らの立場と社会的な役割を考える

●レポート課題と学習ポイント

課題1 現在置かれている自らの立場や社会的役割を考えながら、障がいのある子どもや保護者に関する特別支援教育の課題について、考察しなさい。

まず、現在の特別支援教育の概要について理解してください。文部科学省のHPから「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」を読むとだいたいの流れが理解できます。次にクリスティ・プリティフロンザック『こどものニーズに応じた保育』、或いは新聞、インターネット、文献などから、障がいのある子ども、特に乳幼児期から学童期の子どもと保護者に関する特別支援教育の課題を見つけてください。ご自分の興味の課題はなるべく1つに絞ってください。次に現在のご自分の立場や社会的役割を考え、その課題について、提言をしてください。

課題2 乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題に対して、実践的な支援方法を述べなさい。

課題2では、課題1で選択した課題について、どのようにしたら、その課題をより良い方向に導けるか、考察を深めてください。具体的な支援方法や教育方法の例について、星山 麻木『障害児保育』『この子は育てにくい、と思っても大丈夫 ～生まれてきてくれて、ありがとう 子どもに伝えたいあなたのために』、藤崎真知代『育児・保育現場での発達とその支援』などを参考に、最新の研究や方法論など、例を引用しながら述べてください。

なるべく実践的な支援方法を自分なりに考えてください。

●配本予定テキスト

- (1) クリスティ・プリティフロンザック 『こどものニーズに応じた保育』 二瓶社
2011
- (2) 星山 麻木 『この子は育てにくい、と思っても大丈夫 ～生まれてきてくれて、
ありがとう 子どもに伝えたいあなたのために』 河出書房新社 2017
- (3) 星山 麻木 『障害児保育ワークブック<第2版>』 萌文書林 2017

●参考文献

- (1) 星山麻木 『子どものポートフォリオを作ろう』 東洋館出版社 2006
- (2) 文部科学省 『児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン』
東洋館出版社 2004

2. 演習科目（SR科目）

科目コード	014100
科目名	授業研究演習 A（歴史・理論） 教育学演習 I a（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	廣嶋龍太郎

●テーマ 「教育思想、教育史研究 —現在の教育的課題についての原理的考察—」

本演習においては、教育の考え方や理念、歴史を検討し、現在の教育的課題に重ね合わせながら討論をしていきます。今日の教育をめぐる多様な論議は、時代や社会的背景は異なるにせよ、視点をかえていけば原理的にはすでに論じられてきたものであることが多くあります。このことを演習のなかで実感し、過去から学ぶことの大切さの認識を深めていくことをねらいとしています。また、通信制大学院生は、大学時代、教育学を専門的に学ばれていない方も多いため考慮して授業したいと考えています。

なお、本テーマは「授業研究 A（歴史・理論）」のテーマにも関連して設定されています。

●研究の視点

- (1) 教育の考え方
- (2) 西洋の教育観の歴史
- (3) 日本の学校教育の歴史—明治以降
- (4) 今日の教育的課題

●講義計画（面接授業）

上述の研究の視点にある(1)(2)(3)(4)を解説し、討論していきます。資料はあらかじめ、こちらで用意します。テキストも持参されなくても大丈夫です。ビデオなども活用し、分かりやすく説明したいと思います。

●レポート課題と学習ポイント

テキスト『新しい教育事情』を参照して関心のある章を取り上げ、今日的教育課題に関する自分の考えを述べよ。

このレポート課題の提出は、後述する参考文献や他の資料を利用して考察をまとめたものであってよいですが、面接授業受講後であることが望ましいと考えています。テキストは教員免許状更新講習教材として作成されており、今日的な教育課題を検討する上で代表的な内容を収録しています。講義計画(4)から接続する内容として関心のある内容を中心に参照し、他のテキスト、参考文献なども併せて学びながら自身の見解をまとめてください。

高等学校については2017年度末までに学習指導要領の改訂が想定され、今年度は端境期にあたりますので、その動向を扱う場合は発展的に新学習指導要領を参照していただけると充実したものになるでしょう。また、教職にある方にとっては、『新教師論—学校の現代的課題に挑む教師力とは何か』が示唆に富む内容となるでしょう。

●配本予定テキスト

- (1) 私立大学通信教育協会編『新しい教育事情』私立大学通信教育協会、2018年
- (2) 佐々井利夫・樋口修資・廣嶋龍太郎共著『教育原理』明星大学出版部、2012年
- (3) 小柳和喜雄、久田敏彦、湯浅恭正編著『新教師論—学校の現代的課題に挑む教師力とは何か』ミネルヴァ書房、2014年

●参考文献

- (1) 佐々井利夫・岩木晃範・森下恭光共著『道徳教育の指導法』、明星大学出版部、2012年
- (2) 今井康雄『教育思想史』有斐閣、2009年
- (3) 佐藤環編著『日本の教育史』あいり出版、2013年
- (4) 名倉栄三郎編著『日本教育史』八千代出版、1984年
- (5) 広田照幸監修『学校改革』リーディングス 日本の教育と社会第11巻、日本図書センター、2010年

科目コード	014101
科目名	授業研究演習B（実践・評価） 教育学演習 I b（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	吉富芳正

●テーマ 「教育課程の編成・実施

ーカリキュラムマネジメントの考え方を生かしてー」

今日、各学校は、学習指導要領などの教育課程の基準を踏まえつつも、自律性や主体性を発揮し、子どもたちの資質や能力を高めていくことが期待されています。そのためには、各学校において、教育課程を基幹としながら教育活動の計画・実施・評価を適切に行うことが必要です。

この授業では、まず、今日の学校教育や教師に求められるものを検討した後、学校の教育課程の意義を考えます。次に、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申を踏まえた新学習指導要領のポイントを把握し、よりよい人生や社会を創造するために必要な資質や能力を育成する教育の進め方について共に考えていきます。その際、持ち寄った事例についてカリキュラムマネジメントをはじめ様々な教育課程の理論を生かしながら分析を行い、改善の視点を探っていきます。

●授業計画（面接授業）

- (1) 教育課程を考える背景ー学校教育や教師に求められるもの
- (2) 教育課程の意義
- (3) 教育課程の理論
- (4) 新学習指導要領のポイント
- (5) 資質・能力を育てる授業
- (6) 資質・能力を育てる評価
- (7) カリキュラムマネジメントの考え方
- (8) 持ち寄った事例の紹介
- (9) 事例分析
- (10) レポート作成に向けて

* 本授業（面接授業）の際には、教育課程又は教科等の指導計画等の事例を持参してください。

●レポート課題と学習ポイント

課題：学校の教育課程の工夫改善の視点

本授業（面接授業）及びテキストによる学習をもとに、これからの教育の方向性を考えつつ、学校における教育課程とそれを具体化した指導計画、授業、評価までを視野に

において、それらを工夫改善する視点についてまとめてください。その際、論旨を明快にすること、自分の意見と他者の意見を区別して記述すること、自分の意見を述べる際には必ず理由や根拠を示すこと、引用は出典を明示することに配慮してください。

●配本予定テキスト

- (1) 吉富芳正編 『現代中等教育課程入門』 明星大学出版部 2014
- (2) 安彦忠彦 『改訂版 教育課程編成論 ―学校は何を学ぶところか―』 財団法人放送大学教育振興会 2006
- (3) 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵 『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』 ぎょうせい 2016

* 本授業（面接授業）に先立って、上記テキストのうち、(1)の第1章、(2)の第1章、第8章、第11章、第14章、(3)の第1章及び第2章に目を通しておいください。

●参考文献

- (1) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成28年12月21日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- (2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』 東洋館出版社 平成20年
又は『中学校学習指導要領解説総則編』 ぎょうせい 平成20年
(なお、新学習指導要領の『解説』は、平成29年秋頃刊行見込みです。)
- (3) 文部科学省ホームページ「学習評価・指導要録 関係報告・通知」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1304432.htm
- (4) 吉富芳正「授業改善につながるカリキュラム・マネジメント」『これからのリーダーシップとマネジメント 学力を創るカリキュラム経営』 ぎょうせい 2011年
- (5) 天笠茂『カリキュラムを基盤とする学校経営』 ぎょうせい 平成25年
- (6) 田村知子編著 『実践・カリキュラムマネジメント』 ぎょうせい 2011

科目コード	014102
科目名	授業研究演習C（情報教育） 教育学演習 I c（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	今野貴之

- テーマ「理論と実践の往還」
 - 「ICTの教育的活用」
 - 「情報教育に関する論文の読み方」
 - 「研究方法論の選択」

本スクーリングでは、情報教育に関する諸学問の論文や、情報教育の資料を読むことを通して、テーマへの理解を深めることを目指します。取り上げるテーマは、例えば、教育の諸問題における情報通信技術（Information and Communication Technology 以下 ICT）の活用の可能性と限界や、ICT が可能にする真正な学習などです。演習で取り上げる論文は授業時に適宜配布します。情報教育に関する論文・資料を読むための基本的知識や方法論の理解も深めることを目指します。

また、教育現場で用いられている ICT に実際に触れ、その経験とテキストや論文・資料を比較し、ICT が教育の基本問題にどこまで貢献し得るのか、その限界は何かを議論します。

●研究の視点

- (1) 学習指導要領にみる情報教育
- (2) 教育の諸問題における ICT の活用の可能性と限界
- (3) 情報モラル教育のあるべき姿
- (4) コンピュータに支援された学習
- (5) ICT が可能にする真正な学習

●演習計画

上記の5点の研究の視点について、ICT の教育的活用の視座から講義、討論を行います。また、理論的な内容に加えて、現在の教育現場で使用されているテクノロジーを実際に体験してもらうことを通して、実際の教育現場における指導力も合わせて身につけていきます。

●レポート課題と学習ポイント

レポート課題：普通教室における ICT 環境の整備が進む状況において、教科授業で ICT を活用する上での考え方、留意点について記述しなさい。

学習ポイント：教授者が ICT を用いて授業を行うことに加え、学習者自身も ICT を用いて学習をすすめる状況が整備されつつあります。このような状況において、各々の教科で真

正な学習をどのように促すのかを参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察してください。具体的には学習者の興味を引き学習意欲を高めるような授業の考え方や、その方法、たとえば共同調査、ディベート、グループ学習、プロジェクト、ピアレビュー、情報共有、共同による執筆活動などの進め方・授業内容等を整理するとよいでしょう。

スクーリングでは修士論文のテーマと関連させていくことを目指します。自身の問題意識を出し合い、それぞれのテーマについて焦点を合わせて議論をしていきます。そのためには、あらかじめテキストを読んだことを前提として授業を進めていきます。また、自分の修士論文のテーマに関する参考文献も合わせて読んできてください。さらに、関心のある論文を持参してください。

●配本予定テキスト

1. R. Keith Sawyer【原著】大島 純・森 敏昭・秋田 喜代美・白水 始【監訳】望月 俊男・益川 弘如【編訳】 『学習科学ハンドブック 第二版 第2巻：効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ』北大路書房 2016
2. 久保田賢一・今野貴之【編著】 『主体的・対話的な学びの環境と ICT～アクティブラーニングによる資質・能力の育成～』 東信堂 2018
3. 舟生 日出男【編著】 『教師のための情報リテラシー』 ナカニシヤ 2012

●参考文献

1. 山本 順一・気谷 陽子【編著】 『三訂版 情報メディアの活用』 放送大学教育振興会 2016
2. 岡田 正・高橋 参吉・藤原 正敏【編著】 『ネットワーク社会における情報の活用と技術 三訂版』 実教出版株式会社 2010
3. 文部科学省編 『教育の情報化の推進』 2016
4. P. グリフィン, B. マクゴー, E. ケア【編】 三宅 なほみ【監訳】益川 弘如・望月 俊男【編訳】 『21世紀型スキル：学びと評価の新たなかたち』北大路書房 2014
5. 浦上 昌則・脇田 貴文【著】 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方 東京図書 2008
6. 能智 正博【監修】秋田 喜代美・藤江 康彦【編】 はじめての質的研究法—教育・学習編 東京図書 2007

科目コード	014103
科目名	授業研究演習D（教育社会学） 教育学演習 I d（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	須藤康介

●テーマ 教育調査

児童・生徒を対象とした質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の実施方法を学ぶとともに、調査で得られたデータを分析するための基礎的な手法を身につける。具体的には、神奈川県内の公立中学生約 3000 名を対象とした実際の調査データの分析を行い、各自が簡単なレポートを作成する。教育社会学の代表的な研究手法を学ぶことになる。

●研究の視点

ケータイ所有と授業熱心度はどのように関連しているのか。性別によって友人関係はどのように異なるのか。家庭環境が子供の自己肯定感に与える影響はどのようなものか。教育調査はこれらの問いに対して、データで示唆を与えてくれる。

●講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 教育調査の意義
- 第 3 回 教育調査の流れ
- 第 4 回 サンプリングの論理
- 第 5 回 基礎統計量
- 第 6 回 クロス集計の原理
- 第 7 回 クロス集計の手順（実習）
- 第 8 回 クロス集計の工夫（実習）
- 第 9 回 論文の講読「対人能力」
- 第 10 回 分散分析の手順（実習）
- 第 11 回 相関分析の手順（実習）
- 第 12 回 回帰分析の原理
- 第 13 回 重回帰分析の手順（実習）
- 第 14 回 論文の講読「自己否定感」
- 第 15 回 レポート準備

●レポート課題と学習ポイント

スクーリング期間の終了後に、各自が問題関心に基づいて分析レポートを作成する。修士論文の予行演習という位置づけになる。

統計分析をまったく学んだことがない学生がいることを想定し、基礎から省略せず授業を進める。ただし、履修にあたり、中学校レベルの数学と、文系大学生レベルのPC操作の習熟があることが前提となる。具体的に必要なPC操作の習熟度は、「〇〇をクリックしてください」と言われてすぐにクリックできるレベル、PDFや拡張子という用語が通じるレベル、Webからダウンロードしたファイルの保存先を把握できるレベルである。

※ PC教室で授業を行うため、ログインするためのアカウント名とパスワードを事前に確認しておくこと。ログインできない場合は、授業に参加できない。

●配本予定テキスト

- (1) 須藤康介・古市憲寿・本田由紀 2012『文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版。
- (2) 荻谷剛彦 2002『知的複眼思考法』講談社+α文庫。
- (3) 大谷信介ほか編 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房。

●参考文献

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編 2005『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会。
須藤康介 2013『学校の教育効果と階層』東洋館出版社。
筒井淳也ほか編 2015『計量社会学入門』世界思想社。
寺島拓幸・廣瀬毅士 2015『SPSSによるデータ分析』東京図書。

日本教育社会学会は、年2回『教育社会学研究』という学術雑誌を刊行している。最新の研究成果が掲載されているので、参考になる。Web上でも閲覧できる。

科目コード	014114
科目名	授業研究演習E（教育心理学） 教育学演習I o（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	杉本明子

●テーマ 「認知心理学と教授・学習研究」

この科目では、認知心理学の基本的な知識を習得するとともに、認知心理学的な視点から教授・学習を捉え直すことを第1の目的としています。「人間が様々な事柄を学習し知識を構築するとき、頭の中ではどのようなメカニズムが働いているのか」「人間の認知構造や認知過程に基づいて効果的に教育を行っていくためには、どのような教授法を用いるのがよいのか」というテーマのもとに、教授・学習に関わる基本的な認知心理学の知見について講義を行うとともに、受講生自らが様々な教授法を検討し、心理学の学習理論に基づいた効果的な教授法を考案します。第2の目的は、心理学の分野の主な研究方法（実験法・調査法・観察法・面接法）とそれらを用いた具体的な研究例を概観した上で、受講生各自が自分の研究テーマに関してどのような研究方法を用いて研究を進めていくべきかについて考察することです。受講生各自が今後の研究計画（研究方法）について発表し、クラス全体で討論します。

●研究の視点

- (1) 認知心理学の基本的な教授・学習理論の理解
- (2) 学習理論に基づいた教授法の検討
- (3) 研究の方法論の検討

●講義計画

1. 認知心理学の成立の歴史と方法
2. 情報処理モデルと記憶・知識の獲得
3. 言語学習理論と外国語教授法
4. 様々な教授法の検討と授業案の考案
5. 心理学の主要な研究方法と研究例の概観
6. 受講生自身の研究計画（研究方法）の検討

●レポート課題と学習ポイント

次のいずれかの課題から1つを選択し、レポートを作成してください。

1. 心理学の学習理論に基づき、あなたが効果的だと考える教授法について記述しなさい。

授業で取り扱った認知心理学の知見、様々な学習理論やそれに対応する教授法を参考に、教科学習においてあなたが効果的であると考える教授法について考察してください

(教科は各自自由に選択してください)。その際、あなたが依拠する学習理論を明確に述べてください。また、なぜその教授法が効果的であると考えたのかについても説明してください。

2. 主要な研究の方法論とあなた自身の研究テーマに関する研究方法について記述しなさい。

授業で概観した心理学的な研究方法について考察し、あなた自身が今後どのような方法を用いて研究を進めていくのか(研究計画)について記述してください。

●配本予定テキスト

- (1) スーザン・ベンサム(著) / 秋田喜代美 & 中島由紀(訳) 『授業を支える心理学』 新曜社 2006
- (2) 多鹿秀継 『認知心理学からみた授業過程の理解』 北大路書房 1999
- (3) 平山満義(編) 『事例から学ぶはじめての質的研究法』 北大路書房 2006

●参考文献

- (1) 道又爾, 北崎充晃, 大久保街亜, 今井久登, 山川恵子, 黒沢学 『認知心理学: 知のアーキテクチャを探る』 有斐閣アルマ 2003
- (2) 大津由紀雄・波多野誼余夫(編著) 『認知科学への招待』 研究社 2008
- (3) 下山晴彦・能智正博(編) 『心理学の実践的研究法を学ぶ』 新曜社 2008

科目コード	014113
科目名	授業研究演習F（教育行財政） 教育学演習 I n（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	樋口修資

●テーマ 「教育行財政～現代公教育の構造と課題～」

現代の公教育制度は、憲法上の要請である「国民の教育を受ける権利」を保障するために、とりわけ義務教育において、①教育の機会均等、②教育水準の維持向上、③無償制＝完全就学の実現の三原則を堅持しつつ、社会的に自立できる人間の育成を目指して、基礎基本をしっかりと身に付け、心豊かでたくましい子どもたちを育成することを目的として営まれる社会的な制度であり、国家社会にとって必須の基礎的インフラとして基盤的な役割を担うものである。この公教育制度は、いつの時代にあっても、いかなる国や地域においても、国民の生存権を文化的に保障していく上で欠かすことのできない制度装置であり、教育のいわば「不易」をなすものである。

しかしながら、今日、社会・経済構造が大きく変貌し、とりわけ、「知識基盤型社会」の到来により「知のあり方」の再編が強く要請される中で、「知を育む場」としての学校における「学びのあり方」の改革が求められている。また、国民の教育に対するニーズの多様化・高度化に対応して、教育サービスの提供のあり方もまた従来の「供給者本位」の発想から転換し、評価と公開による「説明責任」や経営におけるP D C Aサイクルを踏まえた学校経営の革新などにより、地域に根ざし、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを進めることが時代の要請となっている。このようなことから、時代や社会の変化に対応した学校と教育の改革が求められていることは明らかである。

この演習においては、教育改革や学校改革が叫ばれる今日、学校教育が抱える問題点と課題について、教育行財政の制度面・管理運営面から捉え直し、内外の最新の教育動向も踏まえながら、今後の我が国における教育改革の課題と方向性を明らかにしつつ、新しい時代の学校教育のあるべき制度設計について展望・考察しようとするものである。

●演習計画

この演習に参加を希望する院生の皆さんは、事前に、『最新 教育の行政・制度と学校の管理運営』などを自学自習の上、スクーリングに臨みたい。

スクーリングにおける具体の演習においては、担当教員が教育行財政の基本構造について講義を行った上で、下記に示すようないくつかの課題について、討議・議論を深めることとする。

なお、本演習講義の際には、『最新 教育の行政・制度と学校の管理運営』を持参して下さい。

(演習事項例)

- ① 公教育における「ナショナル・ミニマム」と「ローカル・オプティマム」について
公教育実施における国・都道府県・市町村・学校の責任と役割の分担はどうあるべきか。全国的な観点からの教育の機会均等、教育水準の確保の要請と教育における地方分権をどう調和させるべきか。
- ② 教育委員会制度の「レゾン・デートル」について
教育委員会制度の形骸化、責任体制の曖昧さ等が指摘され、廃止論や首長への権限委譲論などが話題となる中で、地域住民の教育に対する民意の反映と中立性の確保等を目的として戦後改革の中で創設された教育委員会制度の機能回復は困難なのか。
- ③ 学校における「スクール・ガバナンス」の確立について
教育の現場主義が強く要請される中で、教育委員会が定める「学校管理規則」などを見直し、学校長の責任に対応した運営・人事・予算の各権限の委譲により、学校の自主的・自立的な組織運営 (school based management) を推進することは可能か。
- ④ 学校経営の「アカウントビリティ」について
学校への権限委譲に伴い、学校は、地域に信頼される学校づくりのために、学校経営についての「説明責任」をどう果たしていくのか。PDCAサイクルによる学校の組織運営におけるマネジメントの推進をどのように図っていくのか。学校運営協議会や学校評議委員制度による地域の学校運営への参画や「スクール・ボランティア」の導入など、地域参加の学校づくりをどう進めるか。
- ⑤ 学校力の源泉たる教師の「キャリア開発」について
教育の成否は教師の教育力にあるとされる。しかし、今日、指導力不足教員等教員の資質のあり方が問題とされる状況の中で、優れた教員確保のための「養成・採用・研修」のあり方はどうあるべきか。また、メリハリのある給与体系への移行や教員免許更新制の導入が課題となる中で、今後、教員の評価・処遇・配置等のあり方はどうあるべきか。
- ⑥ 学校の「カリキュラム改革」について
学習指導要領の基準的性格 (ミニマム・スタンダード) を踏まえ、「学びの質」を向上させるための各学校における教育課程の編成・実施の工夫はどうあるべきか。PISA、IEAの国際的な学力調査に見られる国際的な「新しい学力観」の潮流や我が国の子どもたちの学力の課題をどう捉え、子どもたちの人間力の向上に向けてどう取り組んでいくべきか。また、そのための教育条件整備の課題は何か。
- ⑦ 公教育における「公平性＝平等性」と「競争による効率性」の「トレード・オフ」の関係性について
近年、学校教育を一つの「市場」と見立て、競争による教育サービスの効率化が図られるとする「市場原理主義」の観点からの教育改革案として、例えば、「教育バウチャー制度」、「学校選択制度の義務化」、「株式会社立学校の設立の容認」、「教育課程編成の自由化」などの提言が相次いでなされる中で、変化の時代の「公教育制度」の基本構造はどうあるべきか。

● レポート課題と評価

レポートの作成・提出は、演習参加後 (演習中に提出期限は指示します。) とし、レポー

ト課題は、演習の中で提示します。なお、レポートの評価に当たっては、レポート課題についての十分な理解がなされ、当該課題への考察が的確に行われているかどうか等を基準とします。

●配本予定テキスト

- (1) 樋口修資 著『最新 教育の行政・制度と学校の管理運営』 明星大学出版部 2015
- (2) 樋口修資 著『教育委員会制度変容過程の政治力学』 明星大学出版部 2011
- (3) 平原春好著『概説 教育行政学』 東京大学出版 2009

●参考文献

- (1) 文部科学省中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』
平成 17 年(2005)10 月 26 日
- (2) 堀尾輝久著『現代教育の思想と構造』 岩波書店 1971
- (3) 藤田英典著『義務教育を問い直す』 ちくま新書 2005
- (4) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申) 平成 20 年 1 月 17 日
- (5) 河野和清 編著『教育行政学』 ミネルヴァ書房 2009
- (6) 米沢広一 著 『教育行政法』 北樹出版 2011

科目コード	014112
科目名	授業研究演習H（基礎看護） 教育学演習 I m（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	大島弓子

●テーマ：普遍的な看護の本質と社会の変化に対応した看護実践力の育成

医療をとりまく社会現象の変化、特に超高齢化社会への急激な変化と、高度な医療への変革から施策的に変化せざるを得ない状況があり、その中で2025年問題がある。つまり、病院を基盤とした医療・看護から在宅も同様の基盤になることが決定され、看護職は、独立的に自ら判断できるアセスメント力を含む実践力が今以上に必要となってきた。

また、専門的な他職種の人々と連携・協働しながら、科学的な問題解決する能力。さらに、対象者・家族にとって、生命・生活の質を保障するために倫理性の高さも必要となる。さらには、この医療・看護を高めるために研究力も求められる。

しかしながら、保健医療福祉における変化に対応することは必要であるが、看護において普遍的な本質を見失いがちになることも見受けられる。保健医療福祉において、質が高く、かつ状況に即した確実な実践力を必要とする根幹は、人間としてよりよく生き生活することを大切にすることであり、この本質を重視することを忘れてはならない。

本科目では、この本質を根幹にし、社会の変化に対応した看護実践力の育成にあたって、保健医療にかかわる基礎教育、大学院教育、継続教育などの教育制度について概観する。そのうえで理論的倫理的、かつ科学的な教育内容の検討、それらが展開できる教育課程の構築、有効な教育方法について検討する。

看護学教育の教育課程は、コアカリキュラムモデル案（文科省2017）、学士課程のコアコンピテンシー案（JANPU, 2017）、また、教育評価として看護学の分野別評価機構（仮称207）等が取り上げられている現状についても認識を深める必要がある。

これらは、看護学教育を中心に行うが、保健医療福祉に関連する領域の教育としても応用できることを目指している。

この演習に参加を希望する院生は、事前の準備として、保健医療、福祉に影響する社会現象の変化、例えば、高齢化、少子化、医療の高度化、医療経済の逼迫、情報の電子化、役割の拡大、保健医療福祉の教育に伴う法令等について、広く情報収集しておいてほしい。また、現在の保健医療福祉における各種教育制度、現在の教育課程の概括を参考書等から概観しておくこと。さらに、医療全般・情報化社会、基本的人権と医療等の課題、研究倫理等、多様な観点からの検討討論が出来ることを希望している。

下記の1～5について講義をまじえ、演習を行います。受講する院生との話し合いで、テーマ、回数等変更も可能。なお、あらかじめ下記に関連する文献を、出来るだけ入手しておくことをお願いしたい。その文献等も演習に用いて活用させていただく予定。

- 1, 保健医療福祉・看護職の教育に影響する医療・社会環境 (2回)
- 2, 現在の教育の制度、特徴、教育内容、現在直面している課題 (2回)
- 3, 保健医療, 看護の求める本質 (2回)
- 4, 医療・看護職育成の内容を構築するカリキュラム内容 (2回)
- 5, クライアントや家族、地域で暮らす人々の健康上のニーズを適切に判断するアセスメントー看護診断/臨床判断ー介入ー成果の視点、及びそれらのリンケージ (2回)
- 6, 医療・看護職に問われている倫理的な課題と能力育成、研究倫理 (2回)
- 7, 医療者間の協働・連携と看護職の役割拡大と専門性の充実 (2回)
- 8, 医療・看護の教育のかかえる課題から対策へ、優先的に取り組む事柄、まとめ (1回)

●レポートの課題と学習方法

保健医療福祉における医療・看護の教育について、特に取り上げたい現状の課題とそれを改善する内容について、自分の考え方を整理し考察してください。

なお、レポートは演習終了後、上記にかかわる内容で、各自テーマを決定してください。

●配本予定テキスト

- (1) 小山真理子 編集 『看護教育講座1 看護教育の原理と歴史』
医学書院 2003
- (2) 杉森みど里/舟島なをみ 著 『看護教育学(第6版)』 医学書院 2016
- (3) 日本看護協会 監修 『新版 看護者の基本的責務 一定義・概念/基本法/倫理-』
2018年度版 日本看護協会出版会 2018

●参考文献

@持っている便利なもの

- (1) 佐藤禮子, 他著: 基礎看護学、放送大学教育振興会、2011.

@アセスメントー診断ー介入のリンケージで活用するもの

- (1) S.C. ロイ (松木光子監訳): ザ・ロイ適応看護モデル, 第2版, 医学書院, 2010.

@その他の文献で、読んでおくとよいもの

- (1) 李啓充: 市場原理に揺れるアメリカの医療, 医学書院, 1998.
- (2) 李啓充: アメリカ医療の光と影, 医学書院, 2000.
- (3) S. Gordon (勝原裕美子他訳): ライフサポート, 日本看護協会出版会, 1998.
- (4) グレグ美鈴, 池内悦子著: 看護教育学, 南江堂, 2012.
- (5) D.F. チャプリンス (浅野祐子訳): ケアの向こう側, 日本看護協会出版会, 2002.

その他、演習時に紹介します。

科目コード	014104
科目名	幼児教育研究演習A（保育） 教育学演習 I e（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	齋藤政子

●テーマ 「保育実践研究の方法論について」

「保育者の専門性とは何か」

「保育の質の検討」

「世界の保育の現状と日本の保育の課題」

原則として、幼児教育研究A（保育）／教育学特講Ⅱ（保育学）の学習の上に、教育学演習 I e／教育学演習Ⅱに取り組むとよいでしょう。もちろん、どちらも、独立した科目ではありますが、我が国の保育・幼児教育に関する全体的な把握を抜きにして、スクーリングの内容を理解していくのは、むずかしいと思われます。幼児教育研究A／教育学特講Ⅱでは、わが国の保育・子育てを通史的にとらえながら、子育て困難を抱える家族の実態を把握するところに力点を置いています。スクーリングでは、研究の方法論に関する学習を基礎に、「保育」「子育て」に関する研究を概観し、さらに「保育の質」研究の現況について検討することを主眼としています。また、その上に、実践研究のあり方や世界の保育改革を踏まえた「保育の質」に関する議論をしていきたいと思えます。

また、今年度は、主体形成としての保育のあり方についても議論していきたいと思えます。子どもという主体と保育者という主体が相互に響きあい作り上げていく保育とはどのようなものなのか、実践検討を通して議論を深めていきましょう。

●演習の講義計画

1. 問題を設定すること — 問いの立て方、問いと仮説
2. 「保育」「子育て」を対象とした研究の方法
3. 量的研究と質的研究
4. 文献レビューについて
5. 世界の保育・幼児教育改革と日本の課題
6. 日本の「保育の質」—研究「(保育) 条件と (保育) 内容」という視点
7. 良質な保育を支える保育者の専門性とは？
8. 日本の保育実践と乳児集団保育の役割
9. 「子どもとつくる保育」とは—4歳児保育の実践検討を通して—
10. 調査に見る「子育て」の現実と保護者支援・地域支援
11. 再び自分の問いを立て直す

●レポート課題と学習ポイント

次の三つの中から一つを選択してレポートする。

- ① 子どもと子育てを取り巻く問題、特に子どもが抱える困難についてテキストを参考

にして論じなさい。

- ② 世界の保育の現状と日本の保育の課題について論じなさい。
- ③ 「子どもとつくる保育」とは、どんな保育でどんなことが大事にされていると考えるか、論じなさい。

スクーリングでは、修士論文のテーマと関わらせながら問題意識を出し合い、それぞれのテーマについて検討していきたいと思います。あらかじめ、テキストを読んできていただいて議論しながら進めていきたいと思います。参考文献は、ここにあげられたものだけではありません。CiNii やProQuest など学内のデータベースを有効に活用してください。

●配本予定テキスト

- (1) 齋藤政子 編著 『子どもとつくる4歳児保育』 ひとなる書房 2016
- (2) 齋藤政子 編著 『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと一環境との対話から未来の希望へ』 明星大学出版部 2017
- (3) 泉千勢 編著 『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか』 ミネルヴァ書房 2017

●参考文献

- (1) 大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房 2006
- (2) 佐藤郁也 著 『質的データ分析法』 新曜社 2008
- (3) 諏訪きぬ 編著 『母親の育児ストレスと保育サポート』 川島書店 1998
- (4) 津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 1997
- (5) 諏訪義英 『日本の幼児教育思想と倉橋惣三』 新読書社 1992
- (6) H.R. シャプファー・無藤隆 他訳 『子どもの養育に心理学がいえること』 新曜社 2001
- (7) 『倉橋惣三撰書』 全5巻 フレーベル館
- (8) 論争シリーズ 全5巻 1 『資料 母性保護論争』1992、2 『資料戦後母性の行方』1985 ドメス出版
- (9) 無藤隆・やまだようこ他 『質的心理学』 新曜社 2004
- (10) 垣内国光 『プロの保育者してますか?』 かもがわ出版 2008
- (11) 遠藤利彦・坂上裕子 編 『はじめての質的研究法』 東京書籍 2007
- (12) 箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房 2000

科目コード	014105
科目名	幼児教育研究演習B（児童文化） 教育学演習 I f（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	羽矢みずき

●テーマ 「児童文化の研究」

最近の児童文化研究は、保育現場などで使われる絵本、紙芝居、児童文学、玩具などの児童文化財に関する考察という従来のあり方が大きく変化しようとしています。子どもが衣食住や、自然環境や都市景観などの諸文化と関わりながら、どのように成長していくのかということを考える場に変化しています。このような児童文化研究の新たな動きを視野に入れながら、児童文化財と子どもの関わりについて考察を深めていきます。

●研究の視点

- (1) 絵本・児童文学について、それぞれの表現の特徴やそれぞれが持つ歴史への理解
- (2) 絵本・児童文学と子ども読者との関わり
- (3) 子どもの読書の特質

●講義計画

- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 1. オリエンテーション | 2. 児童文化とは何か | 3. 柳田國男の子ども観 |
| 4. 絵本の歴史 | 5. 絵本と教育 | 6. 紙芝居の役割 |
| 7. 児童文学の誕生 | 8. 童心主義の文学 | 9. 大正期の少年少女雑誌 |
| 10. 児童文学を読む① | 11. 児童文学を読む② | 12. 現代児童文学の出發 |
| 13. 児童文学における戦争 | 14. 児童文学の現在 | 15. まとめ |

●レポート課題と学習方法

絵本、あるいは児童文学作品を一つまたは複数選び、その作品と子ども読者がどのように出会うのか、幼稚園、保育所、小学校、児童館、地域・家庭文庫などの場で実際に読み聞かせて、子どもたちの様子を観察してそれを記述しなさい。またその観察を通して、子どもの読書のあり方の特質についても考察しなさい。

子どもたちに絵本や児童文学作品を読み聞かせる前に、とりあげる作品について十分に研究しておくことが必要です。また、どうしてその本を子どもたちに読み聞かせるのかという自分なりのモチーフを形成して、子どもたちのいる場に臨んでください。子どもたちに読み聞かせる本を選ぶためには、まず自分がたくさんの絵本や児童文学作品に触れてみなければならないと考えます。作品を選ぶ手引きは、配本テキストである宮川健郎『子どもの本のはるなつあきふゆ』などを読んでください。

読み聞かせたときの子どもたちの様子を観察し、それについて考察するためには、ビデ

オを撮影するのもよいでしょう。本に触れたときの子どもの反応としては、言葉によるものだけでなく、身体的なものも予想されるからです。撮影したビデオをくりかえし見る中で、様々な発見があるでしょう。

大人としての自分の読みと実際に読み聞かせたときの子どもたちの反応には、何らかのズレがあるかもしれませんが、そのズレが子どもの読書の特質を考えるきっかけになります。考えていく中で、子どもの読書のあり方に関して何か仮説を立てることができたなら、その仮説を検証するために、さらに読み聞かせを重ねる必要があります。

子どもたちの様子を観察しながら、考察を深めていく方法については参考文献(1)宮川健郎『国語教育と現代児童文学のあいだ』の第3部「賢治童話と読者—子ども読者論の試み—」や、配本テキスト『日ようびのおとうさんへ 本をとおして子どもとつきあう』の第2章第4節「絵本と子ども」を参照してください。絵本と子どものかかわりについては、配本テキストである佐々木宏子『絵本の心理学』や参考文献(2)『絵本を読みあうということ』、参考文献(3)『読書療法から読みあいへ』も参考になります。参考文献(4)『文化と子ども』所収の酒井晶代「現代児童文学と「読む」子ども」、村中李衣「読みあい」と子ども」も参照してください。

●配本予定テキスト

- (1) 佐々木宏子『絵本の心理学』新曜社 2000年
- (2) 宮川健郎『子どもの本のはるなつあきふゆ』岩崎書店 2007年
- (3) 宮川健郎『日ようびのおとうさんへ 本をとおして子どもとつきあう』日本標準 2004年

●参考文献

- (1) 宮川健郎『国語教育と現代児童文学のあいだ』日本書籍 1993年
- (2) 村中李衣『絵本を読みあうということ』ぶどう社 1997年
- (3) 村中李衣『読書療法から読みあいへ——[場]としての絵本』教育出版 1998年
- (4) 浅岡靖央他編『文化と子ども——子どもへのアプローチ』建帛社 2003年
- (5) 島弘『図書館と子どもたち』久山社 2003年

科目コード	014107
科目名	幼児教育研究演習C（児童家庭福祉） 教育学演習 I h（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	石田健太郎

●テーマ 「子育て・子育てを支援する社会」

この科目では、子どもの養育に関する社会システムとしての児童家庭福祉に対する基本的な理解にもとつきながら、福祉社会的な視点から「子どもと家族」をいかに社会的に支援するのかといったテーマについて検討することを、第1の目的としています。具体的には、①行政による子ども・子育て支援の取り組み、②保健・福祉領域（教育を含む）における児童虐待への取り組み、といったトピックについて討論を行います。

第2の目的は、社会学における質的研究法（フィールドワーク、インタビュー、エスノメソドロジー）とそれらを用いた具体的な研究例を概観した上で、受講生各自が自分の研究テーマに関してどのような研究方法を用いて研究を進めていくべきかについて考察することです。受講生各自が今後の研究計画（研究方法）について発表し、教員を含めたクラス参加者とのインタラクションを通して、各自のテーマの理解を深めていきます。

●研究の視点

- (1) 「子どもと家族」をめぐる規範
- (2) 子どもの権利と子どもの参画
- (3) 「こころ」の問題から「社会」の問題へ
- (4) 「責任」の形成

●講義計画（面接授業）

上記の研究の視点にある（1）から（4）の解説を行い、①資料やテキストの輪読・視聴、②事例検討、③受講生自身の研究計画（研究方法）、についてクラス全体で討論を行います。

●レポート課題と学習ポイント

課題 以下にあげる4つの選択課題から一つを選択して、論述を行ってください。

- (1) 「子どもにやさしいまちづくり条例」の策定について：自身の居住する自治体における子どもの参画状況について整理しながら、論述してください（条例の策定状況は、それぞれの自治体により異なります）。
- (2) 「児童虐待」の支援方法について：福祉・保健領域における児童虐待への支援方法について、自治体や専門機関の具体的な取り組みをとりあげながら、論述してください。
- (3) 「子どもと養育者」の相互行為場面について：子どもと養育者（専門家を含む）の間のやりとりについて、質的調査法を用いた記述を行ってください（たとえば、

「ちょっと気になる子ども」のように、自らの実践における具体的な事例について分析的に記述・考察してみましよう。

本講義（面接授業）及びテキストによる学習をふまえて、自身の見解（工夫・改善・フラインディングス）を含めながら論述を行ってください。なお、レポート課題の提出は、面接授業受講後であることが望ましい。

●配本予定テキスト

- (1) ロジャー・ハート著・木下勇監修 (2010) 『子どもの参画ーコミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』 萌文社
- (2) 高田明・嶋田容子・川島理恵編著 (2016) 『子育ての会話分析ーおとなと子どもの「責任」はどう育つか』 昭和堂
- (3) 前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編『最強の社会調査入門ーこれから質的調査をはじめるときのために』 ナカニシヤ出版

●参考文献

- (1) 福祉社会学会編集 (2013) 『福祉社会学ハンドブックー現代を読み解く 98 の論点』 中央法規 (幼児教育研究 C (児童家庭福祉) の配本予定テキストです。)
- (2) 比較家族史学会編 (2015) 『現代家族ペディア』 弘文堂
- (3) 上野加代子編著 (2006) 『児童虐待のポリティクスー「こころ」の問題から「社会」の問題へ』 明石書店 (幼児教育研究 C (児童家庭福祉) の配本予定テキストです。)
- (4) 小林登監修・川崎二三彦・増沢高編著 (2008) 『いっしょに考える子ども虐待』 明石書店
- (5) 小木曾宏 (2009) 『Q&A 子ども虐待問題を知るための基礎知識【第2版】』 明石書店
- (6) 子どもの参画情報センター編 (2002) 『子ども・若者の参画ーR. ハートの問題提起に答えて』 萌文社
- (7) 喜多明人・荒牧重人・森田明美編 (2013) 『子どもにやさしいまちづくりー第2集』 日本評論社
- (8) 藤田徹 (2015) 『エスノメソドロジカル・ソーシャルワーカー「手続き論的転回」と「気づきのメソッド」の類似性へ寄せて』 星雲社
- (9) 前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編『エスノメソドロジーー人びとの実践から学ぶ』 新曜社

科目コード	014106
科目名	幼児教育研究演習D（音楽教育） 教育学演習 I g（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	板野和彦

●テーマ 「身体運動を活用した音楽教育の原理とその実践」

平成 20 年に改訂された学習指導要領小学校音楽では音楽に合わせて「からだを動かす活動」について述べられており、共通事項として拍（ビート）、小節、フレーズなどを分析的に聴き取ることの重要性が併せて強調されている。

フレーベルは『幼稚園教育学』の中で子どもたちが行う身体運動を活用した遊戯を「運動遊戯」として分類、解説している。そのなかでは歌いながら行う活動も取り上げられており、これは子どもたちの心身の調和的な発達を促すための、身体運動を活用した音楽に関する活動であると考えられる。本演習ではジャック＝ダルクロワのリトミックをはじめとしてコダーイやオルフによる教育法における身体運動を活用した音楽教育の原理とその実際的な方法について検討し、体験する。

●研究の視点

- (1) 身体運動を活用した音楽教育と子どもたちの心身の調和的な発達
 - (2) 身体運動を活用した音楽教育と子どもたちの音楽的能力の向上
 - (3) 身体運動を活用した音楽教育と子どもたちの創造性の向上
- 以上の三点は、面接授業（スクーリング）で説明します。
- (4) 身体運動を活用した音楽教育の原理と実際の指導について
- この視点はレポート課題とします。

●講義計画（面接授業）

上記の研究の視点（1）～（3）について解説・検討し、実際に体験します。資料はあらかじめこちらで準備します。受講生同士の指導などの体験を含めて実際の場面における指導力も含めて身につけてゆきます。

●レポート課題と学習ポイント

「身体運動を活用した音楽教育の原理と実際の指導について」音楽教育において身体運動を活用することの意義について述べ、想定される具体的な指導法をまとめる。

・このレポート課題の提出は、後述する参考文献を利用したの考察であってよいが、面接授業受講後であることが望ましい。

●配本予定テキスト

- (1) L. チョクシー他 著 『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクロワ、オルフ、C・M』 全音楽譜出版社 1998

- (2) ヴァージニア・ホッジ ミード 著 『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』 ふくろう出版 2007
- (3) ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア 神原雅之 他訳 『ピアノレッスンのためのリトミック』 カワイ出版 2012

●参考文献

- (1) ジャック＝ダルクローズ 著 『リズムと音楽と教育』 全音楽譜出版社、2002
- (2) ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア 著 『リズム・インサイド』
ふくろう出版、2005
- (3) エリザベス・バンドゥレスパー 著 『リトミック教育のための原理と指針 ダルクローズのリトミック』 ドレミ楽譜出版社、2009

科目コード	014108
科目名	障害児者教育研究演習A（障害児者の学習・発達支援） 教育学演習 I i（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	廣瀬由美子

●テーマ 「共生社会の構築を目指した特別支援教育の実際～発達障害を中心に～」

現行の特別支援教育制度は、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導があります。これらの制度では、障害の程度によって教育内容は異なりますが、特別の教育課程の編成を行うことができます。

一方、幼、小、中、高等学校において推進されている特別支援教育は、特別な指導の場（特別支援学級や通級による指導）だけでなく、障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに対応するといった理念のもとに、通常の学級に在籍するLD等の発達障害の児童生徒に対しても、その指導や支援の在り方を模索しています。

このような現状で障害者の権利に関する条約が批准された今、共生社会を目指したインクルーシブ教育システムを構築するために、障害のある児童生徒や保護者の意向を重視した指導や配慮が求められています。つまり、各障害特性に応じた合理的配慮の内容、決定方法、実践等を適切に実施していくことになります。

そこで、博士前期課程の院生の皆様には、以下の列挙する配本予定テキストや参考文献、参考資料等による自学・研究にもとづいて、発表資料の作成および発表や討論を行って頂きます。そのことを通して、①特別支援教育の制度の実際、②共生社会を目指すために特別な指導の場での合理的配慮の追及、③共生社会を目指すために小中学校の通常の学級での合理的配慮の追及、④共生社会の構築を目指した教職員の専門性の向上について、理解と認識を深めて頂きます。

●研究の視点

- (1) 共生社会の構築を担う特別支援教育の制度及び教員の専門性について
- (2) 発達障害のある児童生徒に対する合理的な配慮について
(特別支援学級、通級による指導、通常の学級)

●講義計画

本演習では、特別支援教育の制度の概要（教育課程も含め）及び障害者の権利に関する条約の概要について担当教員が若干の講義をします。

その上で、下記の1)～3)のテーマを選択し、配本予定テキストやダウンロードして頂く報告、参考文献をもとに研究発表資料を作成し討議を行います。

- 1) 特別支援学級における発達障害（高機能自閉症等）の児童生徒への指導、支援、配慮、教員の専門性について
- 2) 通級による指導における発達障害（LD/ADHD/高機能自閉症等）の児童生徒への指導、支援、配慮、教員の専門性について

3) 通常の学級における発達障害（LD/ADHD/高機能自閉症等）の児童生徒への指導、支援、配慮、教員の専門性について

●レポート課題と学習ポイント

上記3つの演習テーマの中から1つを選び、配本予定テキストおよび参考文献等、さらには演習時の発表・討論の内容を踏まえた上で、院生自身の見解を含めながら論述してもらいます。

●配本予定テキスト

- (1) 国立特別支援教育総合研究所 (2014) 『共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例』 ジアース教育出版
- (2) 国立特別支援教育総合研究所 (2014) 『すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修ガイド』 ジアース教育出版
- (3) 中央教育審議会初等中等教育分科会 (2013) 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』 文部科学省
URL: http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm

●参考文献

- (1) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2013) 『教育支援資料～障害のある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～』 (文科省 HP からダウンロード)
- (2) 笹森洋樹・廣瀬由美子・三苫由紀雄 (2009) 『発達障害のある子どもの自立活動の指導』 明治図書
- (3) 小貫悟・桂聖 (2014) 『授業のユニバーサルデザイン入門』 東洋館出版社
- (4) 菅原真弓・廣瀬由美子 (2015) 『特別支援学級をはじめて担任する先生のための国語、算数授業づくり』 明治図書
- (5) 全国特別支援学級設置学校長協会 (2012) 『「特別支援学級」と「通級による指導」』 東洋館出版社
- (6) 佐藤慎二 (2013) 『特別支援学校 特別支援学級 担任ガイドブック』 東洋館出版社

科目コード	014109
科目名	障害児者教育研究演習B（障害児者自立支援） 教育学演習 I j（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	島田博祐

- テーマ：生涯発達を見据えた教育と障害児者の自立支援について
—社会的スキル訓練（SST）・障害理解教育について—

障害児者の自立支援には、ADL（日常生活動作・能力）の向上に加え、社会的スキルの形成が不可欠である。特に軽度知的障害児者や知的遅れのない発達障害児者の場合は、それが特に重要となる、何故なら彼らの多くは基本的な ADL 面に問題はないが、対人関係面を中心とした社会的スキルが不十分なことが多く、それが様々な失敗の要因につながり、社会的自立のバリアになっているからである。本来、社会的スキルは学校等の社会集団の中で自然に習得されるが、認知面の未発達や偏りにより十分に学習できない面があり、教育の中に SST を採り入れる必要が生じる。この基礎を行動観察の手法と併せ学ぶことが第一の目的である。

教育を通じてのスキル形成や能力開発は重要だが、一方で生涯にわたる QOL（生活の質）の豊かさを保障していく教育への転換が、ノーマライゼーションの流れの中で益々重要視されるようになっており、ICF（国際生活機能分類）における環境因子の重視にもつながっている。

その観点に立ち、環境調整を教育支援に生かす方法として、TEACCH プログラムにおける構造化、ジョブコーチのシステムティックインストラクションの中に含まれる課題分析、職務分析がある。これらに関する知識を深めることが第二の目的である。

さらに環境調整は物理的な側面だけでなく、人的な面でも考慮する必要がある。特別支援教育が推進されていく過程で、多くの障害児が学級内において適応し生き生きと活動できるようになるには、障害児自身への指導だけでなく、周囲の健常児・教員・保護者に対し障害理解を進めることが益々必要となる。それを目的として実施される教育が障害理解教育であり、前述した ICF の視点でいえば、人的環境因子を改善する働きを持つと考えられる。この点に関し認識を深めることが第三の目的である。

これらの目的を踏まえて本演習では、通学課程の演習科目で行っている SST（社会的スキル訓練）の動画記録、SST の体験演習なども取り入れながら、少人数のメリットを生かしアクティブに進めていきたい。配本予定の書籍は、可能なら事前の一読していただきたい。

●目標

- (1) SST（社会的スキル訓練）の基礎に関し、作成上の注意点、行動観察の視点も踏まえ学ぶ
- (2) 構造化、課題分析など、システムティックインストラクションに係る手法に関し、

学ぶ

(3) 障害理解教育の意義と方法について理解する。

(4) 上記を通じての発表や相互の議論を通じ、分析・考察力を高め、修士論文執筆に生かしていけるようにする。

●講義計画－受講者のニーズに併せ、年度毎に若干変更あり

1. SST（社会的スキル訓練）に係る指導案の作成と演習、行動観察法
2. 構造化、課題分析、職務分析の手法について
3. 障害理解、障害受容について
4. 実証的研究の方法論（質問紙法、観察法、実験法等）～希望があった場合

●レポート課題と学習ポイント

(1) SST 演習に係る教材、指導案の作成、(2) 環境調整の工夫案、(3) 演習全般の感想等のいずれかの内容を含むレポートを作成し、後日、通信事務局に提出すること

●配本予定テキスト

- (1) 上田敏 『ICFの理解と活用』 萌文社 2005
- (2) 富永光昭著 『小学校・中学校・高等学校における新しい障害理解教育の創造』 福村出版 2011
- (3) 島田博祐・星山麻木編著 『実践に生きる特別支援教育』 明星大学出版 2009

●参考文献

- (1) 佐々木正美監修 『自閉症児のための絵で見る構造化』 学研
- (2) 上野一彦（監修） CD-ROM 付き 特別支援教育をサポートする ソーシャルスキルトレーニング（SST）実践教材集 ナツメ社
- (3) 梅永雄二・島田博祐編 『障害児者教育と生涯発達支援・第三版』 2015 北樹出版

科目コード	014110
科目名	障害児者教育研究演習C（小児保健） 教育学演習 I k（15SK 以前入学者科目名称）
担当教員	星山麻木

●テーマ 「特別な支援を必要とする子ども、保護者、支援者に対する支援の実際」

この科目では、教育に関わる人すべてに関連すると思われる特別な支援を必要とする子どもと保護者に対する支援について、演習を交えて知識と実践力を深め、自らの知と感性を磨きます。討論、プレゼンテーション、実技を交え、個別の教育支援計画の作成、保護者や支援者に対する実際的な支援方法について考察を深めます。

●研究の視点

- (1) 特別な支援を必要とする子どもの特性や支援方法に対する基本的な理解
- (2) 個別の教育支援計画の作成について
- (3) 保護者と支援者に対する支援について

●講義計画

1. オリエンテーション
2. 特別な支援を必要とする子どもとは？
3. 子どもの理解と支援方法のプレゼンテーションと討論
4. 音楽や動きを通じての体験
5. 授業やセッション案の作成
6. テーマに対する討論

●レポート課題と学習ポイント

特別な支援を必要とする子ども、保護者、支援者に対する支援の実際について、この授業を通じて、学んだことから1つテーマを選択し、考察してください。

教育に関わる人すべてに関連すると思われる特別な支援を必要とする子どもと保護者に対する支援について、(1) 個別の教育支援計画の作成について (2) 保護者と支援者に対する支援、どちらか興味のあるテーマについて、授業で学んだことを参考にして、考察を深めてください。

●配本予定テキスト

- (1) 星山麻木 『あなたへのおくりもの』 河出書房新社 2012
- (2) 湯浅 恭正 『よくわかる特別支援教育』 ミネルヴァ書房 2008
- (3) 星山麻木 『気になる子どもみんないきいき保育』 河出書房新社 2016

●参考文献

- (1) 竹田契一 他 『幼児期軽度発達障害児への支援』 発達 97 ミネルヴァ書房 2004
- (2) 東京 IEP 研究会 『個別教育・援助プラン』 安田生命事業団 2000
- (3) 杉山登志郎 『「ギフテッド」天才の育て方』 学研教育出版 2009
- (4) 星山麻木・板野和彦 『一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現』 萌文書林 2015